

事業概要

第5号

平成14年度

特別編集 富山県中央植物園
10年のあゆみ



富山県中央植物園

事業概要

第5号

平成14年度

I 庶 務

1. 整備概要

- (1) 所在地 富山県婦負郡婦中町上轡田42
- (2) 敷地面積 24.7 ha
- (3) 主要施設
- | | | |
|---------------------------------------|----|--------|
| ① 管理研修棟 | 1棟 | 2,090㎡ |
| ② 展示温室（熱帯雨林植物室、ラン温室、熱帯果樹室、高山植物室、雲南温室） | 5棟 | 2,831㎡ |
| ③ 栽培温室（熱帯温室、暖温帯室、温帯温室、冷室、雲南温室他） | 5棟 | 1,076㎡ |
| ④ サンライトホール・エネルギー棟 | 1棟 | 1,456㎡ |
| ⑤ ドリアスホール | 1棟 | 154㎡ |
- (4) 展示植物 約 5,700種類、 95,600本(株)
- ・ 屋外展示園 約2,000種類
 - ・ 展示温室内 約1,200種類
 - ・ 栽培温室・圃場 約2,500種類
- (5) 事業費 約92億円 財源: 地域総合整備事業債(ふるさとづくり事業)
- (6) 整備期間 平成元年度～平成7年度

2. 利用案内(平成15年4月1日現在)

- (1) 開園時間 午前9時～午後5時(入園は午後4時30分まで)
- 冬季(11月～2月)は午前9時～午後4時30分、入園は午後4時まで

区分	個人	団体(20人以上)
大人(高校生以上)	600円	480円
小人(小・中学生)	300円	240円

- (2) 休 園 日 毎週木曜日（木曜日が国民の祝日の場合は開園）、および12月28日～1月4日

(3) 入 園 料

- 減免基準(全額免除) 平成5年9月制定、平成14年3月28日改正

- ① 小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校、養護学校の児童又は生徒が、日曜日、土曜日または祝日に入園するとき。
- ② 児童・生徒、引率者が教育活動又は社会教育関係団体の教育活動として入園するとき。
- ③ 児童福祉施設、身体障害者更生援護施設、知的障害者援護施設に入所している者並びにこれらの引率者が入園するとき。
- ④ 身体障害者手帳の所持者及びその付添者が入園するとき。
- ⑤ 療育手帳を所持する者及びその付添者が入園するとき。
- ⑥ 精神障害者保健福祉手帳の所持者及びその付添者が入園するとき。

(4) 交通機関

● バス利用

- ・ 富山地鉄バス
- JR富山駅(12番乗場)発 29系統
- 萩の島循環線
- 中央植物園前停留所下車、徒歩約1分

● 自動車利用

- ・ 富山市中心部より約15分
- ・ 北陸自動車道富山インターより
- 婦中大橋経由約15分
- ・ JR速星駅より約8分

(1)組織図



園次	長長	黒川 逍 加藤 治好
----	----	---------------

(財)花と緑の銀行 企画管理部

総務課 (一部)	専門員 主事 嘱託 嘱託 嘱託	郷田義博 恒川利一 高井芳美 坂井きよみ 内山朋子
-------------	-----------------------------	---------------------------------------

4. 平成14年度招聘客員研究員

氏名	現職	指導分野	期 間
植村和彦	国立科学博物館古生物第一研究室室長	古植物の系統分類と古植物地理	平成14.11.19～20
高橋正道	新潟大学理学部教授	花と花粉の進化	平成14.11.26～27
芹沢俊介	愛知教育大学教育学部教授	地域個体群の研究とその保全	平成14.12.3～4

5. 平成14年度講師等派遣

年月日	氏 名	内 容	依頼者
14.8.11	山下寿之 ・大原隆明	朝日町宮崎海岸・鹿島樹叢観察会	富山県中央植物園友の会
14.9.26	山下寿之	植生調査指導	富山県自然博物館「ねいの里」
14.7.20	橋屋 誠	きのこ部会きのこ観察会	富山県中央植物園友の会
14.9.28	橋屋 誠	きのこフェスティバル パートⅠ 講師	富山県有峰青少年の家
14.10.5	橋屋 誠	きのこ部会きのこ観察会	富山県中央植物園友の会
14.10.19	橋屋 誠	きのこフェスティバル パートⅡ 講師	富山県有峰青少年の家
14.10.20	橋屋 誠	キノコ観察と鑑賞会 講師	頼成の森
14.11.3	橋屋 誠	きのこ部会きのこ観察会	富山県中央植物園友の会
14.12.2	橋屋 誠	講演会「京都西山の自然」	京都西ライオンズクラブ
15.2.25	中田政司	ラジオ番組出演	株式会社エフエムとなみ

6. 平成14年度委員等

期間	氏名	内容	依頼者
平成14年度	黒川 道	国立科学博物館筑波研究資料センター 筑波実験植物園運営委員会運営委員	独立行政法人国立科学 博物館
平成14年度	黒川 道	(社)日本植物園協会評議員	(社)日本植物園協会
平成14年度	黒川 道	(財)服部植物研究所評議員	(財)服部植物研究所
平成14年度	中田政司	植物地理・分類学会評議員・編集委員	植物地理・分類学会
平成14年度	中田政司	(財)日本染色体学会評議員	(財)日本染色体学会
平成14年度	中田政司	富山県自然環境指針見直し業務調査委員	富山県自然保護課
平成13.6.2 ～事業終了まで	中田政司	富山市科学文化センター展示委員会委員	富山市教育委員会
平成14.10.9 ～15.3.31	山下寿之	県指定天然記念物朝日社叢検討委員会委員	氷見市教育委員会
平成14年度	山下寿之	富山県自然環境指針見直し業務調査委員	富山県自然保護課
平成14年度	神戸敏成	絶滅危惧対策委員会	(社)日本植物園協会
平成14年度	大原隆明	富山県自然環境指針見直し業務調査委員	富山県自然保護課

7. 平成14年度研修生等の受入

(1) 平成14年度博物館実習生

氏名	所属	期間
中林いづみ	富山大学理学部生物学科	平成14.7.29～8.9
近 誠則	富山大学理学部地球科学科	平成14.7.29～8.9
宇津早苗	富山大学理学部生物学科	平成14.8.19～30
小林永奈	帯広畜産大学畜産環境科	平成14.8.19～30

(2) 平成14年度 13年次教員研修会受講者(平成14.8.28～8.30)

氏名	所属	氏名	所属
野口 泉	雄山高校	伊東真利子	奥田小学校
北野幹昌	小杉高校	奥田雅子	奥田小学校
根塚光寛	上中島小学校	盛 真由美	光陽小学校
新堂善子	寺家小学校	酒井克樹	福沢小学校
久和浩美	池多小学校	山崎民子	野村小学校

(3)平成14年度「社会に学ぶ14才の挑戦」受入

富山市立和合中学校(平成14.6.17～21)	婦中町立速星中学校(平成14.9.30～10.4)
浅野亮太 出井友一郎 八木妙湖	吉田慎一郎 宮本光弘

8. 平成14年度視察研修等受入

年月日	視察研修者	内容	人数
14.4.27	富山大学理学部生物学科	新入生オリエンテーション	47
14.5.15	専門学校富山国際職業学院	視察研修	100
14.5.22	テクノ・ホルティ園芸専門学校	施設見学	108
14.7.19	花と緑の銀行	視察研修	117
14.7.21	富山県教育委員会生涯学習室	視察研修	15
14.8.6	吹田市小学校教育研究会	視察研修	16
14.8.27	婦中町シルバー人材センター	視察研修	10
14.9.11	秦皇島市友好訪問団	園内視察	6
14.9.22	花と緑の銀行氷見支店	視察研修	34
14.10.5	富山県林業技術者懇談会	植物撮影技術研修	12
14.10.16	石川県議会元議員連盟	園内視察	8
14.10.23	大阪府和泉市	園内視察	7
14.10.25	富山県内水面漁場管理委員会	園内視察	25
14.11.5	富山県生活環境部男女参画・ボランティア課	園内視察	2
14.11.13	富山県中国雲南省友好協会	園内視察	5
14.11.15	海外技術研修員	園内視察	4
14.11.25	小杉町商工会観光・サービス業部会	施設見学	12
14.12.27	富山県消防防災課	園内視察	2
15.2.4	筑波研究資料センター	園内視察	1
15.2.5	高岡市役所	園内視察	4
15.3.4	富山労務局職業安定部	施設見学	3
15.3.10	富山農地林務事務所	ドリアスホール視察	5
15.3.10	戸出地区花と緑の推進協議会	視察研修	10
15.3.11	富山交通(株)配車センター	施設見学	4
15.3.16	富山交通(株)配車センター	観光研修	21
15.3.19	広島市安佐動物公園・植物公園職員	施設運営状況、園内視察	3
15.3.19	富山交通(株)配車センター	観光研修	13
15.3.19	林政協議会林産振興部会	ドリアスホール視察	18

9. 平成14年度行政バス

(1)県政バス

年月日	内 容	人数			
5.21	都市計画課・街の緑 里の緑	24	7.12	広報課・Bコース	38
5.22	林政課・花の名所めぐり	37	9.6	林政課・花の名所めぐり	25
	林政課・花の名所めぐり	43	9.13	林政課・森林浴	20
5.24	林政課・花の名所めぐり	48	10.7	都市計画課・街の緑 里の緑	44
5.28	林政課・花の名所めぐり	39	10.21	林政課・花の名所めぐり	34
6.7	林政課・花の名所めぐり	48	10.23	都市計画課・街の緑 里の緑	42
6.21	広報課・Bコース	38	10.25	林政課・花の名所めぐり	35
	林政課・とやま植物園めぐり	36	10.3	広報課・Bコース	39
6.26	林政課・花の名所めぐり	39	11.6	林政課・花の名所めぐり	46
6.28	広報課・Bコース	41	11.8	林政課・とやま植物園めぐり	49
			合計 のべ20回 20台 765名		

(2)富山市民バス

年月日	内 容	人数
13.7.19	老田校区	48
13.10.2	水橋東部ふるさとづくり推進協議会	28
合計		2回 2台 76名

Ⅱ 植物管理事業

1. 収集植物現況(平成14年度末現在)

区 画	代表的な植物	種類数	個体数
展示温室		1,213	6,027
熱帯雨林植物室	ビヨウタコノキ、ヘゴ、ゾウタケ	450	1,529
ラン温室	カトレヤ、デンドロビウム、バンダ	238	2,162
熱帯果樹室	バナナ、パパイヤ、パイナップル	310	1,294
高山植物室	コマクサ、クロユリ、プリムラ類	130	917
雲南温室	トウツバキ、カンレンボク	85	125
屋外展示園		2,012	61,383
世界の植物ゾーン		1,114	41,518
ツツジ・シャクナゲ園	レンゲツツジ、西洋シャクナゲ	96	5,806
ボタン・シャクヤク園	中国ボタン、西洋シャクヤク	131	1,776
香りの植物	キンモクセイ、ラベンダー、バラ	82	1,764
繊維の植物	ワタ、コウゾ、ミツマタ	37	820
染めの植物	ベニバナ、アイ、コガネバナ	50	3,174
芝生広場	アメリカハナノキ、サルスベリ	73	5,066
サクラ・ウメ園	サクラ類、ウメ、モモ、カリン	115	2,722
花のプロムナード	ソメイヨシノ、サトザクラ	31	1,263
クレマチス園	テッセン、クレマチス類	189	318
球根植物	原種チューリップ、ヒガンバナ	61	13,145
雲南の植物	ハンカチノキ、シナユリノキ	78	520
北米の植物	ユリノキ、カシワバアジサイ	66	1,355
温室周辺	ワシントンヤシモドキ、ヤタイヤシ	36	2,989
話題の植物	ニガウリ、ウォーキングステイック	69	800
日本の植物ゾーン		898	19,865
シイ・カシの森	ヤブツバキ、スタジイ、タブノキ	176	864
クリ・コナラの森	クリ、クヌギ、コナラ、ガマズミ	194	1,924
ミズナラ・ブナの森	ブナ、ミズナラ、ユキツバキ	174	4,414
沼沢・溪谷の植物	ツリフネソウ、クリンソウ	107	1,346
低地草原	オミナエシ、キキョウ	35	3,004
山地草原	ゼンテイカ、マツムシソウ	60	2,519
湿地の植物	ミズアオイ、アサザ、コウホネ	48	2,598
ロッケリー	フジアザミ、エッチュウミセバヤ	21	528
河原の植物	アキグミ、カワラケツメイ	24	1,073
海岸の植物	クロマツ、ハマナス、イソギク	59	1,595
管理区域		2,476	28,192
栽培温室、栽培圃場	雲南の植物	660	2,275
	琉球列島の植物、系統保存植物	約 1,700	約 8,140
駐車場、入口広場他	チヨウキンレン、ベニバナトチノキ	116	17,777
園全体		約 5,701	約 95,602

2. 平成14年度新規導入植物

(1) 個人、機関からの寄贈

年月日	寄贈者	導入植物
14.5. 8	仁田坂英二	変化咲きアサガオ 26品種(種子)
5.25	越野淳一	クレマチス 7種 7株
6.19	越野淳一	クレマチス 22種 22株
7.4	林野庁	テガタチドリ、ノビネチドリなど 9種 17株
9.26	越野淳一	クレマチス 13種 13株
15.3.15	越野淳一	クレマチス 19種 19株

(2) 植物園協会種苗交換による導入

年月日	植物園	導入植物
15.1.20	内藤記念くすり博物館付属薬用植物園	ホソバタイセイ(種子)
1.21	武田薬品・京都薬用植物園	シナサルナシ(種子)
1.25	熊本大学薬学部付属薬用植物園	アイラトビカズラ(苗)
1.29	広島市植物公園	オニバス(種子)
2.26	京都府立植物園	ハルノタムラソウ(苗)

(3) 種子交換による導入

年月日	植物園	導入植物
14.1.7	Institute Botanique de la Graronne(フランス)	<i>Gleditsia sinensis</i> 他 7種
2.5	ヌシャテル大学植物園(スイス)	<i>Allium oleraceum</i> 他 4種
2.12	ロシア科学アカデミーヤクーツク支部植物園(ロシア)	<i>Leontopodium kurilense</i> 他 16種
2.20	ベルリンフンボルト大学植物園(ドイツ)	<i>Adiantum trapeziforme</i> 他 8種
2.27	ブリティッシュ・コロンビア大学植物園(カナダ)	<i>Mahonia nervosa</i> 他 8種
3.5	ブザンソン大学植物園(フランス)	<i>Ramonda myconi</i> 他 2種
3.11	コメンスキー大学植物園(スロバキア)	<i>Dryas octopetala</i> 他 9種
3.19	高知県立牧野植物園(日本)	<i>Echinops setifer</i> 他 12種
3.26	ターリン植物園(エストニア)	<i>Rosa mollis</i> 他 5種
4.1	ハンガリー科学アカデミー生態 ・植物学研究所植物園(ハンガリー)	<i>Pittosporum bicolor</i> 他 3種
4.23	リヨン植物園(フランス)	<i>Echinopartum horridum</i> 他 17種
5.27	ゲーテ大学植物園(ドイツ)	<i>Leucanthemella serotina</i> 他 19種
5.28	ラトビア国立樹木園(ラトビア)	<i>Picea pungens</i> 他 4種
6.7	新潟県立植物園&筑波実験植物園(日本)	<i>Lychnis miqueliana</i> 他 7種
6.7	ボゴール植物園(インドネシア)	<i>Agathis dammara</i> 他 7種
7.8	ロシア科学アカデミー極東支部植物園(ロシア)	<i>Dendranthema maximowiczii</i> 他 5種
7.9	コペンハーゲン大学植物園(デンマーク)	<i>Begonia franconis</i> 他 20種
8.20	アルタイ州立大学南東植物園(ロシア)	<i>Dendranthema zawadskii</i> 他 5種

(4)購入植物

年月日	購入先	購入植物
14.4.10	大井仙樹園	プシュカン 他3種 3株
4.17	大井仙樹園	ホタルノキ 他9種 10株
4.18	大井仙樹園	ニオイバンマツリ1株
4.21	大井仙樹園	クフェア・タスマイス 他6種 10株
4.24	大井仙樹園	ヤーコン2株
4.27	大井仙樹園	マダガスカルブッドレア 他3種 5株
4.30	大井仙樹園	ナンキョウ1株
5.2	大井仙樹園	エアポテト1株
5.23	水草苑	ミズオオバコ 他2種 2株
6.18	大井仙樹園	モリンド2株
6.27	フルールふるる	ココヤシ 他8種 12株
7.30	フルールふるる	ライティア 他11種 18株
8.24	フルールふるる	サタケンチャ 他2種 4株
8.30	フルールふるる	ヒメアンスリウム 他12種 33株
9.30	フルールふるる	ミルトスタキス・レンダ 他12種 17株
10.1	北山ナーセリー	パリソタ 他4種 11株
10.2	大井仙樹園	オオタニワタリ 他4種 30株
10.28	長島植物園	サンセヴェリア 他3種 4株
10.28	アルペンガーデンやまくさ	クレマチス、コシノコバイモ 他23種 118株
10.30	フルールふるる	ブルメリア 他14種 22株
11.3	大井仙樹園	ガラナ2株
11.24	フルールふるる	ストレリチア 他24種 36株
11.24	大井仙樹園	ブラッソレリオカトレヤ 他2種 10株
11.28	大井仙樹園	ウメ 17種 18株
15.1.20	大井仙樹園	サクラ 2種 4株

3. 平成14年度分譲植物(植物体の部分を含む)

(1)個人、機関への分譲

年月日	分譲先	分譲植物	数量	使用目的
14.4.15	中野 優	<i>Muscari moschatum</i> var. <i>flavum</i>	6株	研究用
5.14	中野 優	エッチュウミセバヤ、ミセバヤ他3種	13株	研究用
10.21	中村郁郎	チヨウキンレン	葉 1 枚	研究用
15.3.26	小矢部市立津沢小学校	カラスウリ	種子30粒	教材

(2)植物園協会種苗交換による分譲

年月日	分譲先	分譲植物
14.5.17	広島大学医学部付属薬用植物園	クロバナヒキオコシ、ツルマメ、エゾヒナノウスツボ(種子)
15. 2. 4	京都府立植物園	ハナガガシ(苗)
2. 4	よみうりランド植物園	ヒロハツリバナ(苗)

(3)種子交換による分譲(平成14年度カタログ)

年月日	配付先	配付種子
15.7.31	リヨン植物園(フランス)	オヤマボクチ 他2種
7.31	ブザンソン大学植物園(フランス)	アヤメ 他5種
7.31	Institute Botanique de la Graronne(フランス)	タカノツメ 他12種
7.31	国立樹木園(フランス)	ミヤマカワラハンノキ 他6種
7.31	ハンガリー科学アカデミー生態・植物学研究所植物園(ハンガリー)	コバノガマズミ 他11種
7.31	ロシア科学アカデミーヤクーツク支部植物園(ロシア)	タカネミズキ 他7種
7.31	中央シベリア植物園(ロシア)	ハマナデシコ 他8種
7.31	ボゴール植物園(インドネシア)	クマシデ 他6種
7.31	ゲーテ大学植物園(ドイツ)	ボタンヅル 他2種
7.31	コメンスキー大学植物園(スロバキア)	ヒメシャラ 他4種
7.31	ラトビア国立樹木園(ラトビア)	オオカメノキ 他6種
7.31	ベルリン－フンボルト大学植物園(ドイツ)	イワカガミ 他4種
7.31	ターリン植物園(エストニア)	エゾユズリハ 他6種
7.31	コペンハーゲン大学植物園(デンマーク)	オオバギボウシ 他1種



Ⅲ 教育普及事業

1. 平成14年度催事記録

(1) 特別開園

催事名称	開催日	開催時間	開催場所	参加者数
夜間開園「夜桜観賞」	4/2(火), 3(水)	18:00～21:00	屋外展示園	3,481
夜間開園「ゲッカビジン観賞」	7/14(日), 15(月)	19:00～21:00	展示温室	589
夜間開園「夜の温室植物」	8/14(火), 15(水)	19:00～21:00	展示温室	636

(2) 企画展示

開催場所：サンライトホール、開催時間：9:00～17:00(11月～1月は16:30まで)

催事名称	開催日	内容
企画展「立山室堂の高山植物」	4/5(金)～5/1(水)	立山室堂周辺で見られる高山植物の紹介
特別展「野生ラン展」	5/4(金)～5/6(日)	ランの野生種と園芸品種を展示
写真展「植物と野鳥」	5/10(金)～6/5(水)	植物と野鳥の関係を紹介
ミニ展示「植物で作る紙」	6/7(金)～6/19(水)	植物を原料として作られる紙の紹介
植物写真教室「講習作品展」	6/21(金)～7/17(水)	講習会で撮影した園内の植物写真を展示
特別展「食虫植物展」	7/19(金)～7/31(水)	様々な姿や動きをする食虫植物の紹介
写真展「夏の夜に咲く花」	8/2(金)～8/21(木)	夏の夜だけに花を咲かせる植物の写真紹介
「友の会植物画部会 作品展」	8/23(金)～9/18(水)	植物園友の会植物画部会会員の作品を展示
企画展「カボチャと瓢箪」	9/20(金)～10/23(水)	カボチャとヒョウタンの紹介
「植物画展」	11/1(金)～11/13(水)	フェアリーリングの会有志の作品を展示
「私の植物写真展」	11/15(金)～12/11(木)	一般から募集した植物写真を展示
企画展「干支にちなんだ植物」	12/13(金)～1/15(水)	干支に関係する植物を実物とパネルで紹介
写真展「植物の造型美」	1/17(金)～2/5(水)	植物の造型的な美しさを写真で紹介
「私の植物画展」	2/7(金)～2/26(水)	一般から募集した植物画作品を展示
「平成14年度研究発表展」	2/28(金)～3/26(水)	植物園での研究活動と、中国雲南省との共同研究について紹介
共同研究報告 一雲南省にペゴニアを求めて一		

(3) 月例行事

● 植物園オリエンテーリング(7回)

親子で植物の問題に取り組みながら園内を散策(開催時間：10:30～12:30)

開催日：毎月第3日曜日

参加者数 約131名

(これ以外に4団体がオリエンテーリングを実施、455名が参加)

● 日曜植物案内(12回)

園内の植物をテーマに沿って植物園の職員が解説(開催時間：11:00～12:00)

開催日：毎月第1日曜日

参加者数 約220名

(4) 講座・講習・講演会

催事名称	講師等	開催日	開催場所	参加者
県民カレッジ連携講座 第18回植物画講習会	豊田路子・岡田宗男 (フェアリーリングの会)	4/27(土) ～28(日)	研修室	54
講演会 北陸地方におけるラン栽培	平田良雄 (富山県蘭協会)	5/5(日)	研修室	50
植物写真教室 やさしい花の撮り方	前佛 勇 (富山県写真家協会顧問)	6/1(土)	研修室 ・園内	54
和紙を作ってみよう	東 秀幸・上口恵子 (平村和紙工芸研究館職員)	6/7(金) ～9(日)	サンライト ホール	
親子植物観察記録会 デジカメで花を撮ろう	富山県情報工房職員	7/21(日)	研修室	42
講演会 変わり咲きアサガオ	仁田坂英二 (九州大学大学院理学研究院助手)	7/28(日)	研修室	15
小学生植物ふしぎ教室	職員	7/29(月) ～31(水)	実習室	27
県民カレッジ連携講座 植物染め講習会-アイで染める-	足立紀美子 (女子美術大学講師)	8/3(土)	実習室	15
植物学講座 粘菌の観察	松本 淳 (慶応義塾大学生物学教室助手)	8/25(日)	実習室	12
トロピカルフルーツを 楽しむつどい	職員	9/22(日)	研修室	33
どんぐりで遊ぼう	職員	10/20(日)	研修室	43
県民カレッジ連携講座 第19回植物画講習会	豊田路子・岡田宗男 (フェアリーリングの会)	11/9(土) ～10(日)	研修室	34
第10回TOYAMA植物フォーラム 外来植物と生態系の保全	鷲谷いづみ(東京大学大学院教授) 梅原 徹(環境設計株式会社取締役) 上赤博文(佐賀県教育センター研究官)	11/17(日)	研修室	72
電子顕微鏡で 植物を観察しよう	職員	1/26(日)	実習室	13
親子植物観察記録会 デジカメで花を撮ろう	富山県情報工房職員	2/9(日)	研修室	43
平成14年度研究発表 共同研究報告 ―雲南省にベゴニアを求めて―	職員	3/16(日)	研修室	40

2. 平成14年度印刷・出版

(1) 「植物園だより」の発行

● 2002年4・5・6月号(通巻23号)

表紙－カタクリ(松本清徳氏撮影)/特集－やってみよう！ 植物園オリエンテーリング/活動報告－私の植物画展、平成13年度研究活動展 植物園を支える研究活動 (6)、追加寄贈された二口画伯の植物画/話題の植物－カラフトイバラ、クレマチス/研究紹介－アオキ類の花粉(技師 志内利明)/中国雲南省の植物と文化－その1 雲南省東南部(主任研究員 神戸敏成)/これからが見ごろの植物－アリウム・クリストフィー、アリウム・カラタウィエンセ、アリウム・モリー/イベント案内

● 2002年7・8・9月号(通巻24号)

表紙－エノテラ・ミズーリエンシス/特集－「種子交換」で入手した植物/活動報告－特別展「第23回 野生ラン展」、写真展「植物と野鳥」ほか/話題の植物－メコノプシス・グランディス、スイフヨウ/研究紹介－チョウジザクラの種内分類(技師 大原隆明)/中国雲南省の植物と文化－その2 雲南省南部(主任研究員

神戸敏成) /これからが見ごろの植物－オオボウシバナ、ナツズイセン、オミナエシ/イベント案内

● 2002年10・11・12月号(通巻25号)

表紙－ジュウガツザクラ/特集－趣味の園芸フェアが開催されました/活動報告－夜間開園「ゲッカビジン鑑賞」、友の会植物画部会作品展、講演会「代わり咲きアサガオ」(仁田坂英二先生)、植物学講座「粘菌(変形菌)の観察」(松本 淳先生)ほか/話題の植物－ヤマトゲバンレイシ、クチナシ/研究紹介－富山県内のコナラ二次林の種類組成と遷移(主任研究員 山下寿之)/これからが見ごろの植物－ノジギク、ハナノキ、ムラサキシキブ/イベント案内

● 2003年1・2・3月号(通巻26号)

表紙－フイリソシンカ/特集－第10回TOYAMA植物フォーラム 外来植物と生態系の保全－植生復元の落とし穴/話題の植物－ナルキッスス・ヴィリディフロルス、ヒツジにちなむ植物/研究紹介－父はなくとも子はある－キミズにみられる繁殖戦略(技師 兼本 正)/中国雲南省の植物と文化－その3 雲南省北西部(主任研究員 神戸敏成)/これからが見ごろの植物－トウツバキ、フクジュソウ、センナリバナ/イベント案内

(2)「富山県中央植物園研究報告」第8号の発行(調査研究事業に掲載)

(3)「事業概要」第4号(平成13年度)の発行(A4判・24頁、平成15年2月20日)

(4)「富山県中央植物園散策ガイド ドリアスマップ」の発行(A3判6ッ折りリーフレット)

3. 平成14年度新聞・雑誌等への寄稿

年月	掲載誌	タイトル	執筆者
14. 4	農耕と園芸	「新花卉探索」ダイリソケイ	神戸敏成
14. 6	農耕と園芸	「新花卉探索」ウンナントベラ	神戸敏成
14. 8	農耕と園芸	「新花卉探索」ニコゲシチョウゲ	神戸敏成
14.10	農耕と園芸	「新花卉探索」マウリティエラ・アクレアータ	宮川 敏
14.12	農耕と園芸	「新花卉探索」カマドレア・アマビリス	宮川 敏
14. 7	北日本新聞朝刊	「とやま面白学 自然科学編」照葉樹の森	山下寿之
15. 2	農耕と園芸	「新花卉探索」サンセヴェリア・パテンス	宮川 敏

4. 平成14年度取材対応

- (1) 新聞 37件
- (2) テレビ 36件 (番組出演 13回)
- (3) ラジオ 10件
- (4) 雑誌等 13件

5. 平成14年度リファレンス(質問対応)状況

	平成8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
総 数	140	243	334	493	624	715	780
質問方法別							
来園	65	84	118	179	258	268	301
電話	73	153	206	301	341	410	432
文書	2	6	9	13	25	37	47
質問内容別							
同定(キノコ)	73 (50)	79 (58)	129 (73)	181 (110)	275 (184)	330 (196)	320 (190)
園芸相談	25	73	103	159	178	208	217
その他	42	91	102	153	171	177	243
質問者業種別							
一般	127	202	266	420	528	606	676
マスコミ	11	35	59	55	67	72	74
植物関係者	2	6	9	18	29	37	30

6. 平成14年度新聞記事(定期掲載を除く)

年 月	内 容	件数
平成14. 4	夜桜鑑賞、桜満開、他	10
5	野生ラン展、写真展「植物と野鳥」、テッセンに白万重咲く、他	23
6	植物公園ネットスタンプラリー、アジサイ見頃、パンノキに実、他	11
7	アーティーチョーク見頃、月下美人150輪満開、特別展「食虫植物展」、他	28
8	トーチジンジャー見頃、センノウ開花成功、夜の温室特別開園、他	15
9	花通信「パンパスグラス・ツリフネソウ見頃」、他	6
10	企画展「カボチャとヒョウタン」、エッチュウミセバヤ開花、他	10
11	ナルキッスス・ビリディフロルス開花、コンニャク芋に花のつぼみ、他	18
12	ドリラスホール上棟式、企画展「干支にちなんだ植物展」、他	19
平成15. 1	リュウキュウベンケイ開花、ジャボチカバの果実見頃、他	17
2	トウツバキ見頃、シナマンサク満開、私の植物写真展、他	12
3	新種の桜を確認、「植物園を支える研究活動」発表会、カタクリ開花、他	18

7. 北日本新聞夕刊「世界の緑とともに」—県中央植物園からの報告—

年月日	掲載テーマ(執筆)
14.4.1	2つの顔—親しまれる園目指して(黒川 遼)
14.4.2	客足の悩み—楽しいサービス心掛け(祖川信一)
14.4.3	雪国の大温室—光取り込む鉄骨の穴(中田政司)
14.4.4	高山植物室—温度を下げる「冷室」(栗林信夫)
14.4.5	植物収集—埋土種子用い新手法(志内利明)
14.4.8	種子交換—外国産入手に好都合(志内利明)
14.4.9	温室管理—コンピューターの落とし穴(大宮 徹)
14.4.18	難しい水やり—10年続けて一人前(中田政司)
14.4.20	檻の中の植物—室内管理に細心の注意(栗林信夫)
14.4.22	戸籍作り—1株ごとに登録番号(大宮 徹)
14.4.23	水辺の植生—「破壊、こそ維持手段(山下寿之)
14.4.24	雲南省の植物—異例の大量導入の実現(大宮 徹)
14.4.25	石林の石—日中友好のシンボル(鶴 克己)
14.4.30	チュリッ—球根荒らすキジとの戦い(山下寿之)
14.5.13	オオオニバス—水温や光 栽培に難関(栗林信夫)
14.5.16	チョウキンレン—屋外でもきれいに開花(大宮 徹)
14.5.17	バオブ—星を壊す危険植物?(神戸敏成)
14.5.18	ゾウタケ—世界最大、用途幅広く(大原隆明)
14.5.21	洋ラン—評価分かれる展示方法(神戸敏成)
14.5.23	バナラ—香り放たない葉の悲劇(宮川 敏)
14.5.24	バナナ—常に実を見てもらうには(兼本 正)
14.5.27	フクベノキ—「コウモリ男」の出番(大原隆明)
14.5.28	コーヒー—栽培地で決まる風味(兼本 正)
14.5.29	青いケシ—高山植物のチャンピオン(宮川 敏)
14.5.30	白映茶—台木から純白の貴婦人(桐林浩二)
14.6.4	ゲッカビジン—開花日予測は難しく(神戸敏成)
14.6.5	カンアオイ—ギフチョウ幼虫の食草(志内利明)
14.6.6	ハエトリグサ—「動く、意外性が人気(兼本 正)
14.6.7	病害虫—珍しいてんぐ果もち病(桐林秀雄)
14.6.10	友の会—会員400人が活発に(高橋一臣)
14.6.11	ボランティア—各自の得意分野で活躍(大原隆明)
14.6.12	オリエンタリング—深まる親子の対話(志内利明)
14.6.13	植物画—富山に根づき全国へ発信(山下寿之)
14.6.14	開花情報—「見ごろ」逃さないために(高橋一臣)
14.6.15	植物の名前—和名あればより親しみ(山下寿之)
14.6.17	民具・民芸品—生活の知恵の結晶展示(高橋一臣)
14.6.18	えとの植物—コマクサは「馬の顔」(高橋一臣)
14.6.19	植物染め—個性的な色合い人気(橋屋 誠)
14.6.20	植物教室—身近な自然を教材に(兼本 正)
14.6.21	どんぐり—自然の材料でこま作り(浅野 豊)
14.6.22	ドリアン—香り強烈、熱帯果樹の王(兼本 正)
14.6.24	植物フォーラム—議論から数々の成果生む(大宮 徹)
14.6.25	幸福の木—水やりはほどほどに(中田政司)
14.6.26	バショウ—富山でも育つバナナ(神戸敏成)
14.6.27	ミョウガ—赤い花の正体は?(橋屋 誠)
14.6.28	キノコ—大忙しの「食用判定」(橋屋 誠)
14.6.29	ケナフ—環境考えるきっかけ(中田政司)
14.7.2	ホームページ—入園者増加への秘策?(松井伸彦)
14.7.3	小学生の疑問—北海道や鹿児島からも(中田政司)
14.7.4	オオツクバネガシ—富山が分布の北限域(山下寿之)
14.7.5	水田雑草—かつてはごく身近に(橋屋 誠)
14.7.6	センボンギク—富山の溪流に根を張り(志内利明)
14.7.8	タテヤマスキ—「クローン増殖」する県木(山下寿之)
14.7.9	エッチュウミセバヤ—県代表する固有植物(中田政司)
14.7.11	サンインギク—雑種化も絶滅の一つ(中田政司)
14.7.12	チマキザサ—ますのすしの必需品(高橋一臣)
14.7.13	ツバキ—日本各地で特徴ある品種(橋屋 誠)
14.7.15	タテヤマ—高地の植物研究支える(志内利明)
14.7.16	チョウノスケソウ—愛称 ドリアス は森の精(高橋一臣)
14.7.17	サクラ調査—「嵐を呼ぶ男」の気苦労(大原隆明)
14.7.18	センノウ—クローンばかり? 国内種(神戸敏成)
14.7.19	ミズアオイ—土壌のかく乱で復活(神戸敏成)
14.7.23	共同研究—日中友好推進にも貢献(神戸敏成)
14.7.24	雲南省から—実験室で観察や現地調査(中田政司)
14.7.25	電子顕微鏡—超ミクロの世界を探検(橋屋 誠)
14.7.26	植物の内部—想像もつかない特別構造(大宮 徹)
14.7.27	立山室堂平—植物相に人為的影響(高橋一臣)
14.7.29	外来植物—毎年5種のペースで発見(大原隆明)
14.7.30	おしば標本—生育確認の証拠に(志内利明)
14.7.31	ヨシナ—受粉せずに雌花結実(兼本 正)
14.8.3	コナラ林—里山維持 早急に検討を(山下寿之)
14.8.5	目指すもの—植物文化推進の中核に(黒川 遼)

IV 資料収集事業

1. 標本資料現況(平成14年度末現在)

	平成3～13年度	平成14年度	点数	合計点数
購入標本	3,000		0	3,000
収集標本	22,070	中田採集中国雲南省産標本 大原他 採集県内産標本 その他	160 1,500 300	24,030
寄贈標本	7,712	古瀬延子(ゴマクサ 他) 高木末吉(ミゾコウジュ 他) 柳原正紀(タカネザクラ 他) 関 太郎(タカギザクラ 他) 酒井初江(ツルカノコソウ 他) 植村和彦(<i>Comptonia peregrina</i>) 奥田重俊(オテダマゼキショウ) 清末幸久(アキノミチヤナギ) 長井真隆(ナベナ)	953 8 6 2 2 1 1 1 1	8,687
合 計	32,782		2,935	35,717

2. 文献資料現況(平成14年度末現在)

(1) 単行本

		平成3～13年度	平成14年度	合計(冊数)
購入	洋 書	924	1	925
	中国書	331	11	342
	和 書	811	33	844
交換寄贈	洋 書	100	2	102
	中国書	37	0	37
	和 書	1,534	401	1,935
合 計		3,737	448	4,185

(2) 雑誌

		平成3～13年度	平成14年度	合計(冊数)
購入	洋 書	2,692	311	3,003
	中国書	634	39	673
	和 書	2,282	180	2,462
交換寄贈	洋 書	586	216	802
	中国書	92	18	110
	和 書	846	576	1,422
合計		7,132	1,340	8,472

V 調査研究事業

1. 研究体制(平成14年4月1日現在)

氏名	職	担当分野・専門分野
黒川 道	園長	植物分類学、地衣類
中田 政司	副主幹研究員 (企画情報課長)	植物細胞分類学、植物細胞遺伝学、染色体、キク属
大宮 徹	主任研究員	植物分類学、植物形態学、植物解剖学、マメ科
山下 寿之	主任研究員	植物生態学、植物社会学、常緑広葉樹林、種子生態
神戸 敏成	主任研究員	植物育種学、植物組織培養、花き植物、絶滅危惧植物
橋屋 誠	主任	植物分類学、菌類(キノコ)、地域フロラ
吉田めぐみ	技師	植物生態学、種生物学、高山植物
兼本 正	技師	植物細胞分類学、琉球列島フロラ、イラクサ科
高橋 一臣	技師	植物分類学、酵素多型、タケ科
大原 隆明	技師	植物分類学、地域フロラ、サクラ属
志内 利明	技師	植物分類学、トカラ列島フロラ、溪流沿い植物

2. 研究課題

- (1) 富山県の植物相と植生に関する調査
- (2) 富山県内の絶滅危惧植物の実態調査、増殖に関する研究
- (3) 導入植物の同定と利用に関する研究

3. 富山県中央植物園研究報告第7号の発行(平成15年3月28日)

Masashi Nakata, Kaiyun Guan, Toshinari Godo, Yuanxue Lu & Jingxiu Li : Cytological studies on Chinese *Begonia* (Begoniaceae) I. Chromosome numbers of 17 taxa of *Begonia* collected in 2001 field studies in Yunnan. (中国産シュウカイドウ属(シュウカイドウ科)の細胞学的研究 I. 2001年雲南省野外調査で採集されたシュウカイドウ属17タクサの染色体数) (1-16).

沢之向 隆・橋屋 誠・鳴橋直弘：日本産タツナミソウ属の果実の表面形態(17-23).

高橋一臣：ミクラザサの葉の表皮微細構造(予報)(25-30).

Masashi Nakata, Zhonglang Wang & Kaiyun Guan : Cytological notes on Yunnanese plants I. *Chamaegastrodia shikokiana* (Orchidaceae), a saprophyte new to Yunnan. (雲南省産植物に関する細胞学的知見 I. 雲南省初記録の腐生ラン、ヒメノヤガラ) (31-35).

山下寿之：ハナガガシ *Quercus hondae* Makino の堅果の発芽と当年生実生の成長(37-44).

兼本 正：ウワバミソウは雌雄同株である(45-48).

神戸敏成・魯 元学・管 開雲：中国雲南省における海菜花(*Ottelia acuminata*(Gagnep.)Dandy)の自生地調査(49-54).

大原隆明・中田政司・高木末吉：富山県フロラ資料(7)(55-69).

橋屋 誠：富山県高等菌類資料(1)(71-77).

4. 平成14年度研究発表「植物園を支える研究活動(7)」(発表順)(平成15年3月16日)

- ・ 神戸敏成：3倍体センノウの微細繁殖
- ・ 大原隆明：富山県で新たに生育が確認された植物(6)
- ・ 橋屋 誠：富山県で記録されたきのこ(7)
- ・ 吉田めぐみ：立山室堂平におけるライチョウの営巣地の植生
- ・ 兼本 正：ウワバミソウは雌雄同株である
- ・ 高橋一臣：ミクラザサの葉の表皮構造

- ・志内利明：アオキ類の発芽
- ・山下寿之：ハナガガシ林とイチイガシ林の種組成と立地環境
- ・大宮 徹：チヨウキンレンの分枝について
- ・中田政司：雲南省にベゴニアを求めて

5. 著書・論文・学会発表等(平成14年度, 富山県中央植物園研究報告第8号掲載分を除く)

黒川 道

- ・広義の *Parmelia* の地理・分類, 地衣類研究会第31回大会, (2002).

中田政司

- ・各都道府県別の植物自然誌研究の現状 16, 富山県, 植物地理・分類研究 50: 182-183, (2002)
- ・都道府県別植物誌・植物目録編纂状況一覧, 植物地理・分類研究 50: 255-256, (2002)
- ・外来種事例集 ヨモギ属とキク属, 日本生態学会(編), 外来種ハンドブック, pp. 195, 地人書館, (2002), (分担執筆)
- ・日本に現存するセンノウの倍数性, 園芸学会, (2002), (共同発表).

山下寿之

- ・植生学会シンポジウム「植生データのデータベース化とその有効利用」に参加して, 植生情報 7: 34-35, (2003).

神戸敏成

- ・日本に現存するセンノウの倍数性, 園芸学会, (2002), (共同発表).
- ・中国雲南省における海菜花 (*Ottelia acuminata*) の遺伝資源調査, 日本育種学会第102回講演会 (共同発表).

橋屋 誠

- ・京都西山の自然, 京都西山の自然編纂委員会・京都西ライオンズクラブ, pp. 165, (2002).
- ・生物多様性調査 生態系多様性地域調査 (大蓮華山地域) 報告書, (分担執筆), (2003).

兼本 正

- ・富山県中央植物園におけるボランティア活動, (社)日本植物園協会第9回研究発表会, (2002).
- ・富山県中央植物園におけるボランティア活動, 日本植物園協会誌 37: 10-12, (2003).

大原隆明

- ・ヤブザクラークローンでありながら種として存続する植物, 日本植物学会第66回大会, (2002), (共同発表).
- ・生物多様性調査 生態系多様性地域調査 (大蓮華山地域) 報告書, (分担執筆), (2003).

志内利明

- ・溪流沿いに生育するセンボンギクの発芽と形態特性, 日本植物学会第66回大会, (2002).

宮川 敏

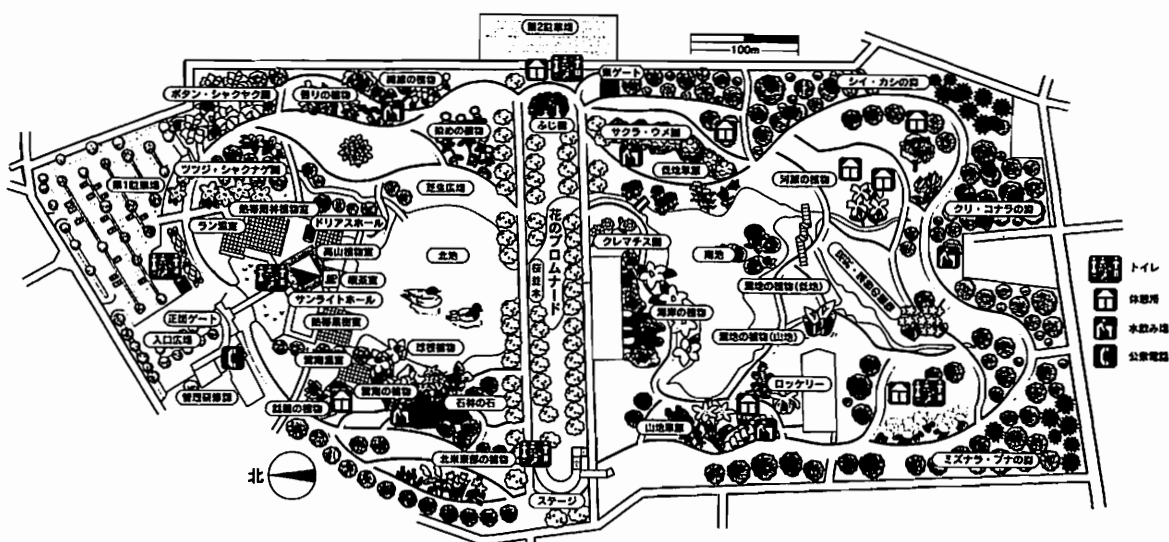
- ・ヒメテーブルヤシについて, 熱帯動植物友の会会報 114: 39-41, (2002).

Ⅵ 参考資料

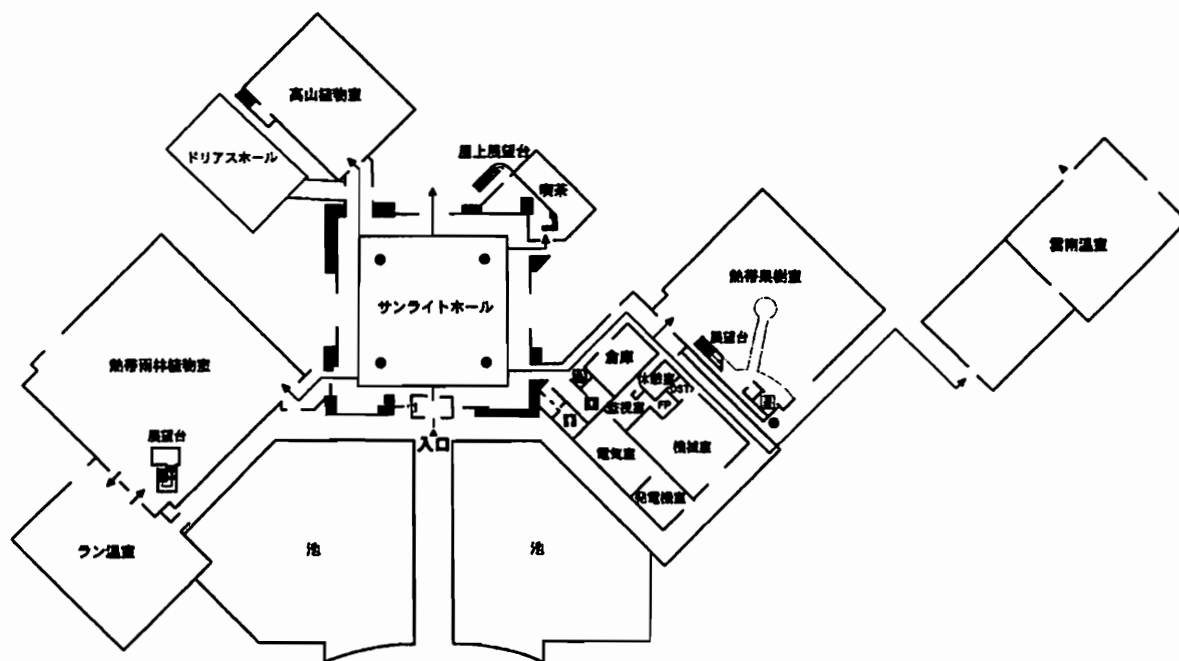
1. 施設概要(着工順)

施設	着工～完成	面積(m ²)	概要
屋外展示園	2.12～5.8	展示区域 16(ha) 池 3(ha)	世界の植物ゾーン、日本の植物ゾーン、花のプロムナード。観察用園路5,400m。
管理研修棟	4.8～6.3	2,090	園長室、植物園管理室、(財)花と緑の銀行事務室、専務理事室、研修室、実習室、文献室、標本室、図書閲覧室、研究室、培養室、映像処理室、車庫、機械室他。
作業エネルギー棟	4.8～5.1	303	ボイラー室、作業庫、休憩室他
栽培温室(5棟)	第1期 4.8～5.1 第2期 5.8～6.1	熱帯温室 302 温帯温室 113 暖温帯温室 302 冷室 151 雲南温室 208	
第一駐車場	4.8～5.1	11,600	380台収容
第二駐車場	8.2～8.4	3,444	150台収容
屋外便益施設	4.8～6.1	のべ393	5棟
サンライトホール	5.8～6.8	888	企画展示スペース、休憩用ベンチ、映像情報システム
エネルギー棟	5.8～6.8	568	展示温室用灯油ボイラー、変電設備、自家発電機、中央監視室他
展示温室(5棟)	第1期 5.8～7.1 第2期 6.7～7.6 第3期 7.3～8.3 第4期 10.10～12.3	ラン温室 400 熱帯雨林植物室909 熱帯果樹室 645 高山植物室 341 雲南温室 (温)313(温冷)223	
正面ゲート	7.3～7.9	171	
雲南コーナー	7.9～8.3	1,500	石林の石 500t、中国雲南省産の植物
外構、入口広場	7.9～8.3		
東ゲート	7.12～8.3	27	
ドリアスホール	14.9～15.3	155	休憩室、図書閲覧

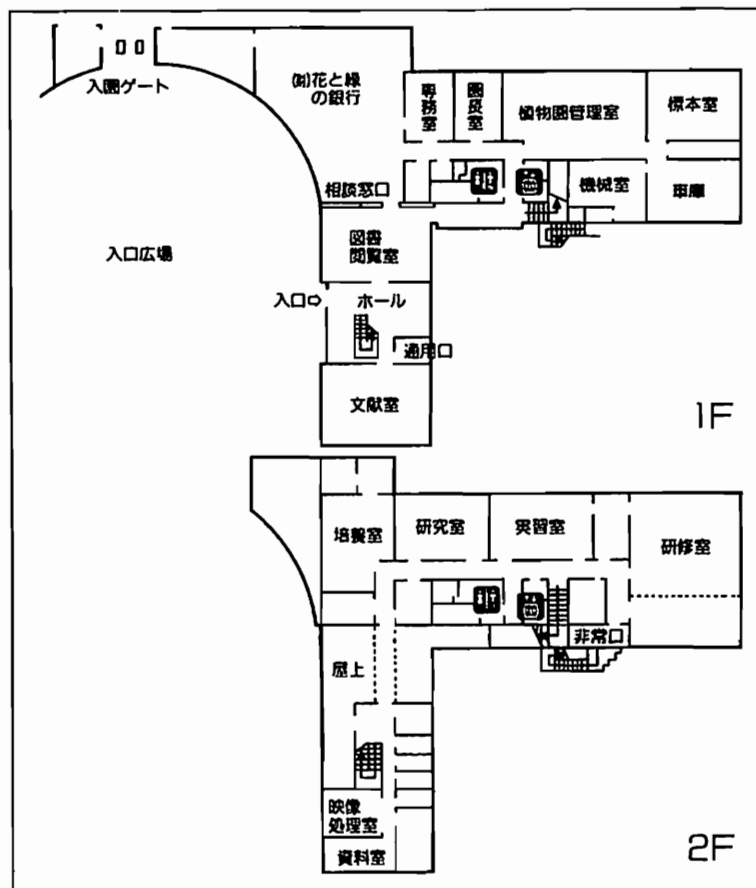
2. 施設平面図



植物園平面図



サンライトホール・温室平面図



管理研修棟平面図

3. 整備事業費

区分	平成元年度	2	3	4	5	6	7	合計
設計監理	26	88	52	21	90	11	9	297
造園工事		716	508	732		91	45	2,092
植栽工事		34	40	301	40	89	162	666
建築工事				863	1,034	1,120	811	3,828
備品			2	92	13		74	181
用地取得		977	959	32			74	2,039
雲南植物					10	3	10	23
石林の石						11	105	116
計	26	1,815	1,561	2,041	1,187	1,325	1,287	9,242

(平成元年～平成7年度)

単位: 百万円

4. 利用統計

(1)平成14年度月別入園者数(有料)

区分 (月)	個人		団体		地職組	友の会	特別観覧*				合計	
	大人	小人	大人	小人			個人		団体		大人	小人
							大人	小人	大人	小人		
4	4,504	169	369	0	17	184	2,801	222	184	0	8,059	391
5	5,421	6	733	0	52	191	—	—	—	—	6,397	6
6	1,921	6	606	0	29	131	—	—	—	—	2,687	6
7	1,542	57	638	49	21	108	430	14	96	0	2,835	120
8	1,623	150	385	0	35	116	450	86	41	0	2,650	236
9	1,866	4	271	0	19	144	—	—	—	—	2,300	4
10	1,477	2	797	0	26	80	—	—	—	—	2,380	2
11	1,033	2	491	0	24	123	—	—	—	—	1,671	2
12	497	3	69	0	11	59	—	—	—	—	636	3
1	749	3	0	0	15	74	—	—	—	—	838	3
2	1,516	1	39	0	28	147	—	—	—	—	1,730	1
3	1,883	20	27	0	99	119	—	—	—	—	2,128	20
合計	24,032	423	4,425	49	376	1,476	3,681	322	321	0	34,311	794

*夜桜観賞(平成14.4.2～3)、ゲッカビジン観賞(平成14.7.14～15)、夜の温室植物(平成14.8.14～15)

(2)平成14年度月別入園者数(無料)

区分 (月)	減免					無料合計	
	一般 大学 高校	小学生	引率	乳幼児	その他	大人	小人
4	3	683	479	1,101	83	565	1,784
5	410	1,022	513	632	155	1,078	1,654
6	141	322	245	300	58	444	622
7	123	259	82	287	178	383	546
8	74	429	117	403	67	258	832
9	132	393	126	319	80	338	712
10	151	444	368	748	101	620	1,192
11	51	303	76	391	68	195	694
12	26	39	25	193	31	82	232
1	17	125	46	259	5	68	384
2	39	77	69	404	78	186	481
3	47	135	75	458	101	223	593
合計	1,214	4,231	2,221	5,495	1,005	4,440	9,726

(3)平成14年度月別入園者総数

区分 (月)	総計		
	大人	小人	合計
4	8,624	2,175	10,799
5	7,475	1,660	9,135
6	3,131	628	3,759
7	3,218	666	3,884
8	2,908	1,068	3,976
9	2,638	716	3,354
10	3,000	1,194	4,194
11	1,866	696	2,562
12	718	235	953
1	906	387	1,293
2	1,916	482	2,398
3	2,351	613	2,964
合計	38,751	10,520	49,271

(4)平成14年度入園料減免対象団体利用状況

団体種別	のべ利用団体数	のべ利用者数
保育園・保育所	46	3,003
幼稚園	5	683
小学校	21	1,746
中学校	7	486
高等学校	4	150
盲・聾・養護学校	7	163
障害者援護施設・手帳所持	13	446
特別養護老人ホーム・老人保健施設	24	797
その他	157	5,888
合計	284	13,362

(5)全面開園(平成8年)後の入園者数

年度	有料入園者		無料入園者		合計		総計
	大人	小人	大人	小人	大人	小人	
8	126,144	11,172	7,307	20,704	133,451	31,876	165,327
9	72,376	5,455	3,414	13,658	75,790	19,113	94,903
10	50,346	3,723	3,282	9,859	53,628	13,582	67,210
11	44,346	2,752	3,503	7,250	47,849	10,002	57,851
12	38,288	2,337	4,835	9,475	43,123	11,812	54,935
13	34,465	2,360	4,703	8,223	39,168	10,583	49,751
14	34,311	794	4,440	9,726	38,751	10,520	49,271
累計	283,177	21,144	18,443	53,947	201,620	75,091	376,711

(6)平成14年度研修室等利用団体数・人数

年度	研修室			実習室 (研修室併用を含む)	合計
	第 1	第 2	第 1 + 第 2		
8	31(1,064人)	4(60)	25(1,001)	1(50)	61(2,175)
9	43(1,336)	7(138)	12(445)	4(483)	66(2,402)
10	21(630)	4(51)	29(967)	3(20)	57(1,668)
11	20(602)	6(88)	27(970)	8(210)	58(1,753)
12	26(739)	5(80)	7(319)	5(76)	41(1,192)
13	23(620)	11(143)	12(630)	5(114)	48(1,507)
14	10(179)	4(43)	7(337)	1(9)	22(568)

5. 例規(平成15年10月1日現在)

● 富山県植物公園条例(抜粋)

公布 平成5年9月30日 富山県条例第54号

改正 平成8年3月27日 富山県条例第14号

平成9年3月26日 富山県条例第 3号

(目的)

第1条 この条例は、富山が誇る豊かな植生等の自然環境を活用して総合的な植物公園の形成を図ることにより、県民に植物に関する多様な学習と憩いの場を提供し、もって県民の教育及び文化の向上並びに福祉の増進に寄与することを目的とする。

(県の責務)

第2条 県は、前条の目的を達成するため、植物公園の中核となる施設として富山県中央植物園を設置し、当該施設と県、市町村が設置する植物に関する展示等を行う施設との連携及びこれらの施設の利用の増進について必要な措置を講ずるものとする。

(設置)

第3条 県民に対し植物に関する総合的な知識の普及等を行うとともに、県内の植物に関する展示等を行う施設(以下「植物展示施設」という)と連携を図るため、富山県中央植物園(以下「中央植物園」という。)を設置する。

(位置)

第4条 中央植物園は、婦負郡婦中町に置く。

(事業)

第5条 中央植物園は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 植物及び植物に関する資料を収集し、保存し、展示すること。
- (2) 植物に関する専門的な調査研究を行うこと。
- (3) 植物に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- (4) 中央植物園及び植物展示施設の利用の増進を図るために必要な連絡調整、技術指導、情報の提供等を行うこと。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、中央植物園の設置の目的を達成するために必要な事業。

(入園の拒否及び制限)

第6条 知事は、中央植物園に入園しようとするものが次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、入園を拒否することができる。

- (1) 中央植物園の秩序又は風紀を乱すおそれがあるとき。
 - (2) 施設、付属設備、植物又は植物に関する資料(次条第1項において「施設等」という。)を汚損し、又は損傷するおそれがあるとき。
- 2 知事は、中央植物園の管理上必要があると認めるときは、入園を制限することができる。

(遵守事項等)

第7条 中央植物園に入園したもの(以下この条において「入園者」という。)は、次に掲げる事項を守らねばならない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

- (1) 他の入園者に迷惑となる行為をしないこと。
- (2) 施設等を汚損し、又は損傷しないこと。
- (3) 施設等を汚損し、若くは損傷するおそれのある物品又は動物若くは植物を持ち込まないこと。
- (4) その他知事が特に指示した事項

2 知事は、入園者が前項の規定に違反したときは、その者に退園を命ずることができる。

(専用使用の承認)

第8条 中央植物園の施設のうち別表に掲げるものを専用して使用しようとする者は、あらかじめ、知事の承認を受けなければならない。

2 略

3 略

(使用料)

第9条 中央植物園に入園しようとする者及び前条第1項の承認を受けた者(第13条において「専用使用者」という。)は、それぞれ別表に定める金額の入園料又は専用使用料を納めなければならない。

2 中央植物園において特別に展示している植物または植物に関する資料を観覧しようとする者は、

1,000円の範囲内で知事が定める金額の特別展示観覧料を納めなければならない。

(使用料の徴収方法)

第10条 入園料、専用使用料及び特別展示観覧料（以下「使用料」という。）は、知事の発行する納入通知書により徴収する。ただし、これにより難いばあいにおいては、口頭又は掲示の方法により現金で徴収する。

2 使用料は、前納とする。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(使用料の減免)

第11条 知事は、特別の理由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

(使用料の還付)

第12条 既に納入した使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(専用使用の承認の取消し等)

第13条 略

(管理の委託)

第14条 中央植物園の管理は、財団法人花と緑の銀行に委託する。

(県有の植物展示施設に対する措置等)

第15条 知事は、県有の植物展示施設のうち、その特色にかんがみ中央植物園と有機的かつ一体的に機能させ、及び利用の増進を図ることが適当であると認められるものを定め、そのために必要な措置を講ずるものとする。

2 知事は、前項の施設を定めたときは、その名称、所在地その他必要な事項を告示しなければならない。

(市町村等の植物展示施設との連携等)

第16条 中央植物園及び前項の施設は、市町村その他の公共団体又は公共的団体が設置する植物展示施設と有機的かつ一体的な利用が図られるよう、これらの施設との密接な連携に努めるものとする。

2 知事は、前項の植物展示施設の設置者の求めに応じて、同項の規定の趣旨を達成するために必要な助言を行い、又は援助の措置を講ずることができる。

(情報の提供)

第17条 知事は、植物展示施設その他関係機関等の協力を得て、植物公園等に関する情報を収集し、県民に対し、これを適切に提供するように努めるものとする。

(規則への委任)

第18条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附則 略

別表(第8条、第9条関係)

1 入園料

区 分	単 位	金 額	
		個 人	20人以上の団体
一般、大学の学生及び高等学校の生徒	1人1回	600円	480円
中学校の生徒及び小学校の児童	につき	300円	240円

備考 知事が定める期間において午後4時以後で知事が定める時刻以後に入園しようとする者に係る入園料は、1人1回につき300円の範囲内で知事が定める額とする。

2 専用使用料

種別	使用時間区分による金額			超過料金1時間 の金額
	9時から16時30分まで	9時から12時まで	13時から16時30分まで	
第1研修室	5,990円	3,000円	3,500円	1,000円
第2研修室	3,000円	1,500円	1,750円	500円
実習室	4,200円	2,100円	2,450円	700円
催し広場	3,720円	1,890円	2,190円	610円

備考

- 1 冷房又は暖房の期間中に第1研修室、第2研修室又は実習室を使用する場合の専用使用料は、この表に掲げる金額に、その額の20パーセントに相当する額を加算した額とする。
- 2 使用時間1時間未満の端数は、1時間として計算する。
- 3 使用時間を短縮した場合においても、専用使用料は、減額しない。

● 富山県植物公園条例施行規則(抜粋)

公布 平成5年10月1日 富山県規則第56号

改正 平成14年3月20日 富山県規則第8号

(趣旨)

第1条 この規則は、富山県植物公園条例(平成5年富山県条例第54号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(専用使用の承認申請)

第2条 条例第8条第1項の承認を受けようとする者は、専用して使用しようとする日(次条において「専用使用日」という。)の3月前から2週間前までの間に富山県中央植物園施設専用使用承認申請書(様式第1号)を知事に提出しなければならない。

(専用使用の変更等)

第3条 略

(休園日)

第4条 富山県中央植物園(以下「中央植物園」という。)の休園日は、次に掲げるとおりとする。ただし知事は、特に必要があると認めるときは、臨時に休園日を定め、又は休園日に開園することができる。

(1) 木曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第3条に規定する休日にあたる場合を除く。)

(2) 12月28日から翌年の1月4日までの日

(開園時間等)

第5条 中央植物園の開園時間は、午前9時から午後5時まで(1月5日から1月31日まで及び11月1日から12月27日までの期間にあっては午前9時から午後4時30分まで)とする。

2 中央植物園に入園しようとする者は、午後4時30分まで(1月5日から1月31日まで及び11月1日から12月27日までの期間にあっては午後4時)までに入園しなければならない。

3 知事は、特別に必要があると認めるときは、前2項に定める時間を臨時に変更することができる。

(原状回復及び点検)

第6条 略

(施設等の汚損又は損傷の届出)

第7条 略

(細則)

第8条 略

附則 略

様式第1号 略

様式第2号 略

6. 愛称とシンボルマーク

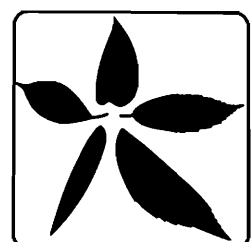
平成10年2月、公募によって決定。

愛称=ドリ阿斯

「ドリ阿斯」は、ギリシャ神話に出てくる「森の精」の意味。また、富山県の立山で最初に発見されたチョウノスケソウの属名(*Dryas*)でもある。

シンボルマーク

いろいろな植物の葉を集めて人の姿を表現したもの。見方によっては「大」の字や花の形にも見え、中央の二つの葉柄が女性の目のようにも見える。



特別編集 富山県中央植物園

10年のあゆみ

富山県中央植物園の変遷



平成8年8月
(提供：大東印刷株式会社)



平成12年8月



平成15年7月

富山県中央植物園 10年のあゆみ

1. 沿革

富山県では県内の優れた植生地や公園・緑地などをそれぞれ特色のある専門植物園として整備し、これらをネットワーク化することにより、県土全体として一つの植物公園の形成をめざす全国的にもユニークな「富山県植物公園構想」を推進している。

「富山県中央植物園」は、この植物公園ネットワークの核となる施設として平成元年から整備が進められ、平成5年10月1日に屋外展示園を開園し、その後、展示温室やサンライトホール、中国雲南省の植物と「石林の石」を配した雲南コーナー等を整備して平成8年4月26日に全面開園した。平成10年10月には中国雲南省から導入した植物を育成・展示するための「雲南温室」の建設が始まり、平成12年2月18日に完成、一般公開された。平成14年9月10日には憩いの場や学習の場として多目的に利用可能なドリアスホールの建設に着工し、平成15年3月14日に完成した。

昭和58年 4 月	「富山県民総合計画」において植物公園設置の検討
昭和60年 2 月	「富山県グリーンプラン」において植物公園設置の計画提示
昭和60年 7 月	「富山県植物公園構想懇談会」設置
昭和63年12月	同懇談会において「富山県植物公園基本構想」策定
平成元年 6 月	「富山県植物公園整備委員会」設置
平成元年11月	同委員会から「富山県植物公園について」報告 (中央植物園・専門植物園の機能分担、整備方向、候補地等)
平成 2 年 3 月	富山県中央植物園設計競技
平成 2 年 8 月	基本設計
平成 3 年 5 月	造成工事起工式
平成 5 年10月	開園(屋外展示園公開)
平成 7 年 9 月	建築工事定礎式
平成 8 年 4 月	全面開園(展示温室公開)
平成 8 年 5 月	中国雲南省昆明植物研究所と友好協定調印
平成10年 8 月	全面開園後の入園者30万人達成
平成10年10月	雲南温室着工
平成12年 2 月	雲南温室完成
平成12年10月	中国雲南省昆明植物研究所と共同研究に関する合意書調印
平成13年 4 月	開園後の入園者50万人達成
平成14年 9 月	ドリアスホール着工
平成15年 3 月	ドリアスホール完成



部分開園 テープカット(平成5年10月)



全面開園 テープカット(平成8年4月)



全面開園後30万人目(平成10年8月)



開園後50万人目(平成13年4月)



雲南温室完成(平成12年2月)



ドリアスホール完成(平成15年3月)



北池から温室を望む：左から雲南温室、熱帯果樹室、サンライトホール、熱帯雨林植物室、高山植物室
(平成15年9月)

2. 中央植物園職員（平成15年10月1日現在）

氏名	所属	現職名	勤務開始*	勤務年数*
黒川 遼		顧問	平成3.4.1	13
内村悦三		園長	平成15.9.1	1
加藤治好		次長・温室課長	平成14.4.1	2
三上正男		主幹・展示園課長	平成15.4.1	1
中田政司	企画情報課	副主幹研究員・課長	平成5.2.1	11
橋屋 誠	企画情報課	主任	平成7.4.1	9
高橋一臣	企画情報課	主任	平成6.4.1	10
志内利明	企画情報課	技師	平成8.4.1	8
村家直樹	企画情報課	技師	平成14.4.1	2
神戸敏成	温室課	主任研究員	平成6.9.1	9
吉田めぐみ	温室課	主任	平成5.4.1	11
兼本 正	温室課	主任	平成5.4.1	11
大原隆明	温室課	技師	平成7.4.1	9
栗林信夫	温室課	業務技師	平成8.4.1	8
大宮 徹	展示園課	主任研究員	平成6.7.15	10
山下寿之	展示園課	主任研究員	平成8.5.1	8
大森 博	展示園課	専門員	平成15.4.1	1
谷口松義	展示園課	専門員	平成15.4.1	1
桐林浩二	展示園課	業務技師	平成5.4.1	11
浅野 豊	展示園課	業務技師	平成4.7.1	12

* 植物園建設の勤務を含む

3. 中央植物園関係者OB

氏名	旧職名(勤務開始当時)	勤務開始	勤務終了	勤務年数
中村喜行	植物公園建設班長	平成2.4.1	平成4.3.31	2
奥田達夫	植物公園建設班副主幹	平成2.4.1	平成6.3.31	4
加藤治好	植物公園建設班副主幹	平成2.4.1	平成10.3.31	8
稲場秀雄	植物公園建設班	平成2.4.1	平成5.3.31	3
松井昭夫	植物公園建設班	平成2.4.1	平成5.3.31	3
須沼英俊	植物公園建設班	平成2.4.1	平成4.3.31	2
飯田岳美	植物公園建設班	平成2.12.1	平成4.10.2	2
荒屋健治	植物公園建設班	平成3.4.1	平成6.3.31	3
村中栄一	植物公園建設班長	平成4.4.1	平成5.9.30	2
森 靖弘	植物公園建設班	平成4.4.1	平成7.3.31	3
中田清志	専門員	平成5.4.1	平成7.3.31	2
黒田悦弘	主任	平成5.4.1	平成8.3.31	3
石黒信二	中央植物園次長	平成5.10.1	平成9.3.31	4
河合二夫	植物公園建設班副主幹	平成6.4.1	平成8.3.31	2
桐林秀雄	専門員	平成6.4.1	平成14.3.31	8
加藤誠一	技師	平成6.4.1	平成10.3.31	4
浜松貞夫	専門員	平成7.4.1	平成10.3.31	3
中川達夫	植物公園建設班	平成7.4.1	平成8.3.31	1
小見 豊	中央植物園次長	平成9.4.1	平成12.3.31	3
小坂道弘	中央植物園部次長	平成10.4.1	平成13.3.31	3
松田 弘	専門員	平成10.4.1	平成11.3.31	1
湊伸一郎	技師	平成10.4.1	平成12.3.31	2
有沢弘宣	嘱託	平成10.4.1	平成14.3.31	3
祖川信一	中央植物園次長	平成12.4.1	平成14.3.31	2
松井伸彦	主任	平成12.4.1	平成14.3.31	2
鶴 克己	中央植物園部次長	平成13.4.1	平成15.3.31	2
宮川 敏	技師	平成13.12.3	平成14.12.28	1

10年間に実施した教育普及事業の概要

中央植物園では、教育普及事業として様々な講演会、講座・講習会、企画展示を実施してきた。ここでは、部分開園から10年間に開催した教育普及事業の概略を紹介する。

1. 部分開園記念行事

平成5年10月1日に富山県中央植物園は、屋外展示園を部分開園した。10月1日に開園式を執り行い、その後、部分開園記念行事として展示会や講演会、講習会、イベントが催された。

講演会・講習会	開催日
第1回 TOYAMA植物フォーラム	10/3
植物画講習会 1	10/9
植物画講習会 2	10/16
親子押し花教室	10/9～10, 17

イベント	開催日
野点	10/2, 3
各種切り花、鉢花の即売	10/2, 3
親子オリエンテーリング	10/9
園内ガイド	10/2～3, 9～11, 16～17



親子オリエンテーリングの様子

展示会	開催日
東洋蘭展	10/1～3
生け花展	10/1～3
中国植物展	10/1～3
植物画展	10/8～20
バラ展	10/16, 17
野草錦葉展	10/16, 17

2. 第13回全国都市緑化とやまフェア

富山県中央植物園オープニングフェスティバル

中央植物園が全面開園した平成8年4月26日から6月14日までの50日間、第13回全国都市緑化とやまフェア“彩りとやま緑化祭'96”のテーマ会場となり、富山県中央植物園オープニングフェスティバルが開催された。この期間中、多くの企画展示、講演会、講習会等を実施した。また、野外ステージでは、県内の8つのアマチュア吹奏楽団による演奏会も開かれた。

講演会・講習会など	開催日
食虫植物学習会	4/29
植物教室・観察会(タンポポ)	5/12
トロピカルフルーツを楽しむ会	5/12, 19
植物画講習会	5/25, 26
オリエンテーリングクイズ	5/26
クレマチスの品種と栽培	6/2
ウールの植物染色を語る	6/9



トロピカルフルーツを楽しむ会の様子

企画展示	期間
食虫植物展	4/26～5/11
世界の植物園展	4/26～6/6
雲南省植物パネル展	5/7～23
植物画展	5/24～6/5
クレマチス展	5/24～6/5
ウールの植物染色700彩展	6/7～19

3. 特別開園

行事名	開催など
夜桜観賞	平成9年度から継続
夜の熱帯植物観察会、夜の熱帯植物を見る、夜の温室植物	平成10年度から継続
ゲッカビジン観賞の夕べ	平成12, 14年度に実施

4. TOYAMA植物フォーラム

平成5年から毎年、第一線で活躍する講師の方々を招聘し講演して頂いた後、意見交換を行った。

テーマ	開催日
第1回「富山県中央植物園」 —これからの展望—	平成5年10月3日
第2回「薬用植物と植物園」	平成6年10月2日
第3回「富山県植物誌をめぐって」	平成7年12月3日
第4回「稀少植物の保護と植物園」	平成8年12月1日
第5回「中国雲南省の植物と日本の植物」	平成9年11月30日
第6回「ボランティア活動と植物園」	平成10年11月15日
第7回「植物と香り」	平成11年11月28日
第8回「植物が語る日本列島の歴史」	平成12年11月19日
第9回「地方植物誌の課題」	平成13年11月18日
第10回「外来植物と生態系の保全」 —植生復元の落とし穴—	平成14年11月17日



第6回 TOYAMA植物フォーラム

5. 講演会・講座・講習会

行事名	開催日など
植物画講習会	平成5年度から継続
日曜植物案内	平成5年度から継続
親子オリエンテーリング、植物園オリエンテーリング	平成5年から
夏休み植物教室、夏休み小学生植物ふしぎ教室	平成6年度から継続
植物学講座	平成6年度から継続
草木染講習会、植物染め講習	平成6～14年まで開催。
組織培養入門、やさしいバイオテクノロジー	平成8年～11年度
植物教室、親子植物教室	平成8、9年度
トロピカルフルーツを楽しむ会	平成8～9、13～14年度に開催
紙漉き実演、和紙を作ってみよう	平成8～14年度
ネイチャービデオ教室	平成8年7月28日
どんぐりで遊ぼう	平成8年度から継続
植物園を支える研究活動	平成8年度から継続
夏休み中学生植物教室	平成9～10年度
植物写真撮影法、植物写真教室	平成10年度から継続
講演会「世界の野生ランを訪ねて」	平成10年5月10日
講演会「世界のランの秘密」	平成11年5月9日
クレマチスの観察と栽培法	平成10年6月7日
きのこ相談会	平成11～12年度
電子顕微鏡で植物を観察しよう	平成11年度から継続
講演会「園芸ランの最近の傾向」	平成12年5月14日
親子植物観察記録会 デジカメで花を撮ろう	平成12年度より継続
草笛を楽しもう	平成12年6月24～25日
講演会「夢の植物を創る」	平成12年9月17日
講演会「エビネとその仲間」	平成13年5月13日
講演会「ハーブを探る」	平成13年7月8日
スライド講演「スイスアルプスの高山植物」	平成13年9月2日
講演会「北陸地方におけるラン栽培」	平成14年5月5日
講演会「変わり咲きアサガオ」	平成14年7月28日

6. 企画展示

行事名	開催期間など
植物画展、植物画作品展、私の植物画展	平成5年度から継続
食虫植物展*	平成8、10、12、14年度に開催
植物園を支える研究活動	平成8年度から継続
クレマチス展	平成8～12年度に開催
未来に残したい植物展	平成8年8月8日～20日
野生ラン展*	平成9年度から継続
千支にちなんだ植物展	平成9年度から継続
植物写真教室 講習作品展(写真展)	平成11年度から
お盆の植物展	平成11年8月13日～18日
二口画伯追悼植物画展	平成11年9月23日～10月6日
世界のタバコ属植物 ―バイオテクノロジーを支えた植物―*	平成12年9月1日～27日
雲南温室完成記念展	平成12年2月18日～3月8日
ミニ展示(「サクラとモモ」「雲南省の植物」「植物と色」 「森の妖精 きのこ」「パイナップルの仲間」)	平成12年度に開催
デジタル植物標本写真“スキャノグラフィー”の世界*	平成13年4月13日～5月9日
ミントとラベンダー	平成13年6月29日～7月18日
植物と昆虫 ―食べられ、食べて、助け合う―*	平成13年7月20日～8月15日
スイスアルプスの高山植物(写真展)	平成13年8月17日～9月12日
立山室堂の高山植物	平成14年4月5日～5月1日
植物と野鳥(写真展)	平成14年5月10日～6月5日
植物で作る紙	平成14年6月7日～19日
夏の夜に咲く花(写真展)	平成14年8月2日～21日
カボチャとヒョウタン	平成14年9月20日～10月23日
植物の造形美	平成15年1月17日～2月5日

特別展として開催された企画展(*)の様子を以下に示した。

食虫植物展

食虫植物の種類や捕虫のしくみ、分布や進化などをパネルで解説した。触ると葉が開閉運動するハエトリグサ、モウセンゴケの粘りつく粘液、不思議な形をしたウツボカズラ、サラセニアの捕虫袋などを観察できるように実際の植物も多数展示した。また、ジオラマを作成して自生地の様子も再現した。



オープニングフェスティバル期間中の食虫植物展

野生ラン展

富山県蘭協会との共催でサンライトホールで開催し、毎回200株ほど展示している。エビネの仲間が中心であるが、中には、デンドロビウムやエピデンドルムなどの海外の野生ランも見られた。また、顕微鏡を使っでのランの種子の観察や、組織培養による野生ランの保全についてパネルでの紹介、ライヘンバッキアのランの図譜の展示も行った。



華やかなランの展示

世界のタバコ属植物

—バイオテクノロジーを支えた植物—

「タバコの仲間」、「バイオとタバコ」、「タバコの文化」として、様々な側面からタバコ属植物を紹介した。今日のバイオテクノロジーを支えてきた重要なモデル植物としての解説や、信仰などとの深い結びつきを実物とパネルや写真で展示した。また、「夢の植物を創る」として、千葉大学園芸学部教授の三位正洋氏の講演があった。



「タバコの仲間」の展示

デジタル植物標本写真

“スキャノグラフィー”の世界

前千葉県立中央博物館副館長の大場達之氏が考案したデジタル画像として植物を記録する方法で、生きた植物をスキャナーで取り込み保存する。“スキャノグラフィー”と名付けられたこの手法で印刷された作品90点を展示した。また、植物園の友の会の主催で“スキャノグラフィー”の実演を交えての講演会が催された。



スキャノグラフィーの展示

植物と昆虫

—食べられ、食べて、助け合う—

夏休み期間中に開催し、蝶や蛾の幼虫の食草となる植物、植物を食害する甲虫、イスノキ、ヌルデなどにできる虫えい、ウツボカズラなどの食虫植物、除虫菊と樟脳、冬虫夏草、ランの花と昆虫、アリと植物、植物に擬態する昆虫など、さまざまなトピックスで植物と昆虫との関わり合いが紹介された。



植物と昆虫の展示

7. その他

NHK趣味の園芸フェア

平成14年8月25日に富山県中央植物園のある婦中町が町制60周年を迎え、記念イベントとして中央植物園のサンライトホールで開催された。花のある暮らし「シュウメイギク」と、咲かせよう育てよう「葉色が美しい観葉植物」をテーマとしたNHK「趣味の園芸」の公開収録に続いて、「花と緑の歌謡ステージ」では歌手の門倉有希さんと角川博さんの歌が披露された。



NHK趣味の園芸フェアでの撮影の様子

園内挙式

平成13年には植物園のサンライトホールにて結婚式が行われた。

中国雲南省（昆明植物研究所）からの植物導入、共同研究のあゆみ

1. 友好提携の経緯

平成4年 3 月	富山県雲南植物訪問団 訪中	中央植物園への雲南植物の導入について協議
平成4年 8 月	雲南省友好訪問団 来県	富山県知事表敬訪問
平成4年12月	雲南省日本富山県中央植物園視察団 来県	3月の意向書を基に富山県側と協議
平成5年 6 月	富山県中央植物園整備実務協議団 訪中	協力合意書の締結
平成5年10月	雲南植物の導入が始まる	
平成5年11月	昆明植物研究所の派遣職員交流が始まる	
平成6年12月	富山県中央植物園整備実務協議団 訪中	「石林の石」、雲南植物の導入について協議し、合意書に調印
平成7年 5 月	富山県中央植物園整備実務協議団 訪中	「石林の石」仮組みの確認と雲南植物の導入について協議
平成7年 9 月	「石林の石」到着	
平成8年 4 月	中国雲南省友好訪日代表团 来県	昆明植物研究所との友好提携を締結
平成9年11月	富山県中央植物園整備実務協議団 訪中	答礼と今後の交流について協議

2. 雲南省からの植物導入の経緯

雲南省からの植物導入については、平成4年に雲南省科学技術委員会と交換した協力意向書に沿って具体的な導入計画の話合いが進められ、平成5年および平成6年に調印した植物導入計画に関する協力合意書に基づいて、植物の導入を実施した。導入植物の採集は昆明植物研究所が担当し、12回に分けて富山県中央植物園へ送付され、総計662種に達した。この間、導入した植物の管理や富山での植物の順化は、昆明植物研究所から一年交代で派遣された2名の技術者に指導を受けた。



友好提携の調印式

(1) 雲南省からの導入植物の概要

導入回	導入年月日	導 入 植 物	種類数	個体数
第一次導入				
第1回	平成5年10月	ボタン属、トウツバキなど(苗/種子)	67	300
第2回	平成6年3月	シャクナゲ属、サクラソウ科など(苗/種子)	39	126
第3回	平成6年11月	シャクナゲ属、サクラソウ科など(苗/種子)	18	151
第二次導入				
第4回	平成7年4月	雲南甘草、華山松など(種子)	16	-
第5回	平成7年10月	迎春柳、皮袋香、山椒梅など(苗/種子)	25	134
第6回	平成8年2月	毛葉柿、峨嵋薔薇、柳蘭など(種子)	57	-
第7回	平成8年2月	烏頭、野八角、鶏肉参など(苗)	46	257
第8回	平成9年1月	柏木、川貝母、雲南鉄杉など(種子)	40	-
第9回	平成9年1月	喜樹、紅菱花、白蘭花など(苗)	68	339
第10回	平成9年12月	牛舌草、鉄刀木、使君子など(苗/種子)	106	107
第11回	平成10年12月	牛蹄藤、大葉桂、紅杉など(苗)	99	495
“	平成11年1月	光葉槭、小葉木蓮、直茎莓など(種子)	13	-
第12回	平成12年1月	落地生根、耳叶風仙花など(苗/種子)	122	470
合 計			716 * (662)	約2,379

*種類数の累計は716種であるが、重複する種があるため総種数は662種となる。

(2)「石林の石」の導入について

中国雲南省の石灰岩地形の『石林』の近辺で採取されたものを日中友好のシンボルとして昆明市から提供された。輸送は、1995年9月17日に中国船「魯海（ルーハイ）号」に「石林の石」を積載して出航した後、9月26日富山新港に到着。約1週間かけて中央植物園に運び込んだ。その後、昆明市園林局職員の技術指導を受けて組み立てられ、1996年4月の中央植物園全面開園式の際、除幕式と供に一般公開された。



「石林の石」の組立て作業

3. 昆明植物研究所との共同研究の経緯

富山県中央植物園が保有する技術を活用して、雲南省産貴重植物の特性解明とその増殖を図り、昆明植物研究所と共同で自生地における調査・研究を行うことが、平成12年10月13日「日本国富山県中央植物園と中華人民共和国中国科学院昆明植物研究所との共同研究に関する合意書」で合意に達し、平成13年度から事業を開始した。

(1)研究内容

研究テーマ：雲南省の貴重植物（特に稀産・絶滅危惧植物）に関する保全生物学的調査・研究

研究期間：1期を2年とする5期10年

研究対象：第1期 ベゴニア属 第2期 マメ科 第3期 モクレン科

第4期 ツバキ科 第5期 サクラソウ科

研究方法：1年に1名、3ヶ月以内で職員を相互派遣し、共同で研究を遂行する。

研究経費：渡航費は派遣側負担、滞在費は受入れ側負担、調査・研究費は富山県負担とする。

(2)相互派遣職員

富山県中央植物園派遣職員	期間
神戸敏成(主任研究員)	平成13年5月15日～8月9日
中田政司(副主任研究員)	平成14年6月21日～9月16日
昆明植物研究所派遣職員	期間
魯元学(助理研究員)	平成13年11月14日～平成14年2月9日
王仲朗(副研究員)	平成15年3月10日～6月11日



共同研究の調印式



共同研究の様子(魯元学 助理研究員)

話題の植物

アングレカム・セスキペダーレ(ラン科)

Angraecum sesquipedale Thouars

種小名のセスキペダーレは「15インチ(=1フィート1/4 約38cm)の花弁」の意味で、このランの特徴である長い距を表わす。ダーウィンがこのランを見て「この長い距の底にある蜜を吸うことが出来るほど長い口吻(蜜を吸う管)を持ったスズメガが存在する」と予言し、約40年後の1903年に、長さ30cmもある口吻で、このランの蜜を吸いに来て花粉を媒介するキサントパンスズメガが発見され、ダーウィンの予言は見事に実証された。



アングレカム・セスキペダーレの花
花の後ろに長い距が見える

ウンナンツツジ(ツツジ科)

Rhododendron yunnanense Franch.

雲南の三名花として、ツバキ、シャクナゲ、サクラソウが有名である。このうち、シャクナゲの仲間のウンナンツツジは、中国雲南省に分布するツツジ科の植物で、当植物園では平成6年3月に昆明植物研究所より種子で導入した。平成9年に高山植物室に植栽し、毎年4月下旬から5月上旬にかけて株いっぱいにつける。中国名は雲南杜鵑。



ウンナンツツジの花

オオバイチジク(クワ科)

Ficus auriculata Lour.

中国雲南省昆明植物研究所から導入したイチジク属の一種で直径70cmほどになる大きな葉が特徴で、入園者は葉の大きさに驚く。中国名は「大榕樹」で富山県中央植物園では和名として「オオバイチジク」を推奨している。この仲間には観葉植物として有名なベンジャミンやガジュマルなど多くの種類があり、雲南省からも数種類導入されている。



大きなオオバイチジクの葉

オキナヤシ(ヤシ科)

Washingtonia filifera (Linden ex Andre) H. Wendl.

平成8年の全面オープンに向けて温室修景のために成木が導入されたが、その後、キツツキが上部の幹にあけた穴から芯に腐れが入ってしまい、危険になったのでやむなく伐採した。しかし、撤去の前に結実があり、その種子から芽生えた株を平成15年初夏、もとの植栽場所に植え成長を見守っている。



オキナヤシの実生苗

キバナセイナンボタン(ボタン科)

Paeonia delavayi Franch. var. *lutea* (Delavay ex Franch.) Finet & Gagnep.

中国雲南省の中部から西北部にかけて分布する。黄色の栽培品種のもととなり園芸上にも重要な種である。中央植物園には麗江で採取された株が中国科学院昆明植物研究所を通じて平成5年10月に導入され、ボタン・シャクヤク園に植栽されている。



黄色い花を咲かせるキバナセイナンボタン

キバナノツノゴマ(ツノゴマ科)

Ibicella lutea (Lindl.) Van Eselt.

尖った果実が特徴。花の色はツノゴマが薄赤紫色であるのに対し、本種はその名のとおり鮮やかな黄色である。話題の植物エリアに植栽している株で比較すると、本種の方が葉はやや大きく、花序の形もより明確な円錐形になるという違いがあるが、両者は全体的によく似ている。



キバナノツノゴマの花と果実

ギンコウボク(モクレン科)

Michelia alba DC.

中国雲南省昆明植物研究所から導入したモクレン科オガタマノキ属の植物で、直径7cmほどの花が咲く。花は強い芳香があり、開花中は温室中に漂う。中国南部では糸で縛ったこの花を吊り下げて香水のように使う。よく似た種類に黄金色を帯びた花をつけるキンコウボクという樹木がある。



良い香りのするギンコウボクの花

グネツム(グネツム科)

Gnetum gnemon L.

平成15年グネツムが開花した。植栽後は樹勢が悪かったが、平成14年から活力が復活してきた。植物系統学的に裸子植物と被子植物をつなぐ重要な位置にあることで有名な種であり、その花も特異な形態をしていた。残念ながら、今回結実まではいたらなかった。



グネツムの開花の様子

センノウ(ナデシコ科)

Lychnis senno Siebold et Zucc.

600年以上前に中国から渡来したと考えられている植物であるが、日本では絶えてしまったと思われていた幻の植物である。数年前に鳥根県で栽培されていることが確認され、中央植物園ではバイオテクノロジーの技術を利用した増殖・保存や育種の研究に取り組んでいる。



今では幻となったセンノウの花

ゾウタケ

Dendrocalamus giganteus Munro

世界最大のタケの仲間、稈は高さ20m、直径30cmにおよぶ。中央植物園に植栽しているものは約30年前に台湾から日本へ導入されたもので、持ち込み時には余りにも巨大であるため、背中に背負って持込まれたというエピソードがある。平成14年度には当園のゾウタケを使用して門松を作るイベントが行われた。



世界で最大になるタケの仲間ゾウタケの筍

ツノゴマ(ツノゴマ科)

Proboscidea louisianica (Miller) Thell.

平成11年、種子交換によりアルゼンチンから導入した。果実が成熟すると緑色の果肉が割れ、中から黒色を帯びた堅い内果皮が現れる。その先端は鋭く尖って湾曲し、大型の動物にひっかかって種子散布がされると考えられている。話題の植物エリアに植栽展示している。



ツノゴマの花と果実

ツバキカズラ(ユリ科)

Lapageria rosea Ruiz et Pav.

ユリ科のつる性植物で、一属一種である。赤く大きな花は正面から見るとツバキのようで、和名の由来になっている。チリで原産でチリの国花にもなっている。標高が高い場所に自生するため、夏の暑さに弱く、日本での栽培はやや難しい。白花や花が大きい園芸品種もある。



チリの国花ツバキカズラ

トウツバキの園芸品種(ツバキ科)

Camellia reticulata Lindl. cv.

中国雲南省に自生するトウツバキをもとに中国で育成された園芸品種で、中央植物園へは約20品種が導入されている。直径20cmにもなる大輪の花はまるでボタンのように、開花時期の2～3月には雲南温室全体が赤く染まる。



大輪の花を咲かせるトウツバキの園芸品種

バオバブ(バンヤ科)

Adansonia digitata L.

バオバブは平成9年10月に導入された。この個体は沖縄県宮古島の道路脇に植えられていたもので、幹の直径は最も太いところで1mを超える。植栽後の初めての夏、根巻きの土と一緒にやってきたクマゼミの幼虫が羽化し、富山では聞かないクマゼミの声が果樹温室に響き渡った。



苦勞したバオバブの温室への搬入

ハッチンシア・アルピナ(アブラナ科)

Hutchinsia alpina (L.) R.Br.

高山植物室には海外から種子交換で導入し、育てた苗を約60種類展示している。ハッチンシア・アルピナは平成11年にドイツ、ゲーテ大学植物園より導入したもので、翌年6月に高山植物室に植栽した。この植物はヨーロッパアルプスの標高3200mまでの岩場に生育し、高山植物室内では2月下旬から4月まで開花する。



種子交換で導入したハッチンシア・アルピナ

パンノキ(クワ科)

Aetocarpus communis J.R. Forst. & G. Forst.

パンノキは植栽後6年を経て結実した。植えて間もない頃は雄花ばかりが開花したが、平成13年頃から雌花が開花するようになり、去年平成14年にはじめて結実した。果実の様子から当園のパンノキは種子がある品種であると思われる。



初めて結実したパンノキの果実

ヒスイカズラ

Strongylodon macrobotrys A. Gray

まさに翡翠(ひすい)色の勾玉に似た形の花が咲くつる性の木本。当園では3月から5月のゴールデンウィークの頃に最長1mにおよぶ長い花穂が見られる。原産地のフィリピンでは、森林の開発により絶滅が危惧されている。



美しい翡翠色をしたヒスイカズラの花

ヒマラヤヤマボウシ(ミズキ科)

Dendrobenthamia capitata (Wall. ex Roxb.) Hutch.

雲南省をはじめとする中国南部各地からインド、ネパール、パキスタンまで広く分布している。ヤマボウシやハナミズキに近縁の植物であるが、本種は総苞片が花後、黄色になる。中央植物園には雲南省禄勳で採取された株が中国科学院昆明植物研究所を通じて平成7年10月に導入、雲南の植物エリアに植栽され、6月前後に開花する。



ヒマラヤヤマボウシの花

マンゴー(ウルシ科)

Mangifera indica L.

平成7年に導入した後、開花はするものの、結実しなかった。そこで、平成14年に花序に植物生長調整物質を散布したところ、ほとんどの花序に数個の果実が結実した。中央植物園では、アメリカのフロリダで創られた赤紫色に熟する‘アーウィン’という品種を熱帯果樹室で栽培している。



初めて結実したマンゴーの果実

ムユウジュ

Saraca asoca (Roxb.) De Wild.

仏教三聖樹の一つで、摩耶夫人がこの花を手にとった時に、その脇の下から釈迦が生まれたという伝説がある。直径1cm程度の小さな花は開花時には黄色だが、咲き進むに従って赤色に変化する。中央植物園では平成13年の早春に初開花した。富山県は仏教が盛んな土地柄のためか来園者に人気が高い樹木。



仏教三聖樹の一つ ムユウジュの花

メコノプシス・ホリドゥラ(ケシ科)

Meconopsis horridula Hook.f. Thomson

メコノプシス属は「ヒマラヤの青いケシ」として有名な植物で、ヒマラヤや中国西南部の標高3,500~5,000mに分布する。平成10年にメコノプシス・ホリドゥラの種子の寄贈を受け、冷房機を備えた栽培冷室にて、夏期の日中の最高気温25℃、夜間の最低気温18℃の環境下で栽培した。発芽後2年を経て平成12年5月に6株が開花した。花の色は淡紫色から藤色で、赤味がかっていた。開花した株は高山植物室に鉢植えで展示した。翌13年には9株が開花した。いずれの年も開花した株はその年のうちに枯死した。その後はメコノプシス・ベトニキフオリアやメコノプシス・グランディス等を苗や種子で導入し、毎年開花期に展示できるよう努めている。



メコノプシス・ホリドゥラの花

ヤブツバキの園芸品種「白秋茶」(ツバキ科)

Camellia japonica L. 'Bai Yang Cha'

平成14年の冬、中国雲南省から導入されたトウツバキに導入品種とは違う白色の花が咲いた。調べてみると、トウツバキの台木から咲いていることが分かり、ヤブツバキ系の品種「白秋茶」であることが判明した。日本では清楚と受け取られる白い花も中国では必ずしも好まれるものではなく、もっぱら台木として利用されている。別名「白玉杯」とも呼ばれる。



純白の花のヤブツバキの園芸品種「白秋茶」

リュウキュウベンケイ(ベンケイソウ科)

Kalanchoe integra (Medik.) O. Kunze

琉球列島の一部で野生していた日本で唯一のカルンコエの仲間、現在では野生絶滅したと考えられている。平成12年に栽培していた株を譲り受け、大切に系統保存し、開花時には温室内で展示している。冬期に黄色の花を咲かせ、観賞価値の高い植物である。



野生絶滅したリュウキュウベンケイの花

ロングウッドオオオニバス(スイレン科)

Victoria 'Longwood Hybrid'

平成12年8月に広島市植物公園から譲り受けた苗を屋外の北池に植栽し、平成12年9月22日午後7時より開花し始め、その後2日間にわたって開花した。また、1ヶ月間の間に2度開花し、水温が低くなった11月には浮葉は枯死した。ロングウッドオオオニバスはバラグアイオニバスとオオオニバスとの人工交雑種。



夜間に開花するロングウッドオオオニバス

研究業績一覧(中央植物園着任～平成13(2001)年度)

1. 黒川 遼

所属学会：地衣類研究会(名誉会員)、American Bryological and Lichenological Society

論文・著書

1994. *Bulborrhiza africana*, a new genus and species of the Parmeliaceae. Acta Bot. Fennica 150: 105-107.
1994. Japanese species of *Parmelia* Ach.(sens. str.), Parmeliaceae(2). J. Jpn. Bot. 69: 121-126.
1994. Japanese species of *Parmelia* Ach.(sens. str.), Parmeliaceae(3). J. Jpn. Bot. 69: 204-213.
1994. Japanese species of *Parmelia* Ach.(sens. str.), Parmeliaceae(4). J. Jpn. Bot. 69: 262-269.
1994. Japanese species of *Parmelia* Ach.(sens. str.), Parmeliaceae(5). J. Jpn. Bot. 69: 373-378.
1995. Threatened lichens in Japan. In C.Scheidegger et al.(eds.): Conservation Biology of Lichenized Fungi. pp.141-146.(H.Kashiwadaniと共著)
1996. Checklist of lichens of Toyama with notes on floristic features. Bull. Bot. Gard. Toyama 1: 1-21.
1996. 植物の導入とその利用 ―富山県中央植物園では―. 日本植物園協会誌 30: 10-13.
1996. エッチュウミセバヤ自生地の現状. 富山県中央植物園研究報告 1: 47-51.(中田政司と共著)
1997. Revision of Japanese species of *Myelochroa*(Parmeliaceae). Bull. Bot. Gard. Toyama 2: 23-43. (S.Arakawaと共著)
1997. Cytological studies on chinese plants introduced from Yunnan Province. I. Karyomorphology of some species of *Primula* and *Androsace*(Primulaceae). Bull. Bot. Gard. Toyama 2: 1-15. (Q.A.Wu他と共著)
1998. A new record and a new species in *Myelochroa*(Parmeliaceae). J. Jpn. Bot. 73: 12-14.
1998. Three new species and a new combination in *Parmotrema*(Parmeliaceae). Bull. Bot. Gard. Toyama 3: 17-23.(K.-H. Moonと共著)
1998. A catalogue of *Heterodermia*(Physciaceae). Folia Cryptog. Estonica 32: 21-25.
1999. Notes on *Flavopunctelia* and *Punctelia*(Parmeliaceae) with description of four new species. Bull. Bot. Gard. Toyama 4: 25-32.
1999. 絶滅危惧植物と植物園. ―ヨーロッパにおける新しい動き. 日本植物園協会誌 33: 31-34.
1999. A note on pustulate or sorediate species of *Cetrariastrum*(Parmeliaceae). J. Jpn. Bot. 74: 251-255.
2000. New species and new records in *Hypotrachyna*(Parmeliaceae). Bull. Bot. Gard. Toyama 5: 9-24.
2000. A list of Thailand species of *Parmelia*(sens. st.) preserved in the National Science Museum. Nat. Sci. Mus. Monogr. 18: 97-106.(K.H.Moon, H.Kashiwadaniと共著)
2001. 富山県中央植物園が中国雲南省から導入した植物の和名. 日本植物園協会誌 35: 108-111.(大宮他と共著)
2001. Parmelioid lichen genera and species in Taiwan. Mycotaxon 77: 225-284.(共著)
2001. Taxonomic notes on *Parmelia reparata*(Parmeliaceae, Lichens) and the related species. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, ser. B, 27: 1-10. (共著).
2001. The genus *Rimelia*(Lichens) from the Hawaii Islands. J. Jpn. Bot. 76: 321-328.(共著)
- 学会発表
1995. 地域固有種保全の試み-エッチュウミセバヤの実態調査.(社)日本植物園協会第2回研究発表会. (中田政司と共同発表)
1996. 中国雲南省より導入したサクラソウ類の特性と栽培に関する研究 1. サクラソウ科数種の核形態. (社)日本植物園協会第3回研究発表会. (中田政司他と共同発表)
1996. 中国雲南省より導入したサクラソウ類の特性と栽培に関する研究 2. サクラソウ属の発芽・生育に及ぼす温度の影響.(社)日本植物園協会第3回研究発表会. (神戸敏成他と共同発表)
2000. 富山県中央植物園が中国雲南省から導入した植物の和名. (社)日本植物園協会第7回研究発表会. (萩巣樹徳他と共同発表)
2001. 研究施設としての植物園の役割. 造園学会関西支部大会セミナー.

2. 中田政司

所属学会：日本植物学会、染色体学会、日本植物分類学会、日本植物形態学会、植物地理・分類学会（評議員・編集委員）、日本生態学会

論文・著書

1993. Fluorescent banding pattern analysis of eight taxa of *Phaseolus* and *Vigna* in relation to their phylogenetic relationships. *Theor. Appl. Genet.* 87: 38-43. (J.Y. Zhang他と共著)
1993. Cytological studies of Chinese Cyperaceae (1). Chromosome counts of nine species collected from Jilin, Liaoning and Hebei Provinces. *J. Jpn. Bot.* 68: 65-69. (T.Hoshino他と共著)
1993. キク科植物の細胞学的特徴. プランタ 30号. pp.10-15. 研成社, 東京.
1994. Chromosome numbers of some *Dendranthema* collected in Eastern Liaoning Province and Xiaowutai Shan. In: Tanaka, R. (ed.), *Karyomorphological and Cytogenetical Studies in Plants Common to Japan and China.* pp.15-22. Nishiki Print Co., Ltd., Hiroshima. (T.Funamoto他と共著)
1994. Karyomorphological studies in Chinese -Two species in north China region-. *La Kromosomo* II-74: 2576-2582. (T.Funamoto他と共著)
1994. Cytological studies of three species of *Chrysosplenium* in North China. *La Kromosomo* II-74: 2583-2590. (T.Funamoto他と共著)
1994. キク属 (分担執筆). 週刊朝日百科「植物の世界」2号. pp.50-61. 朝日新聞社, 東京.
1995. Cytological studies on wild *Chrysanthemum* sensu lato in China. V. A chromosome study of three species of *Ajania*, *Cancrinia maximowiczii* and *Dendranthema lavandulifolium* in the Chrysantheminae, the Anthemideae, the Compositae in Chinese highlands. *J. Jpn. Bot.* 70: 85-94. (K.Kondo他と共著)
1995. Phylogenetic relationships between six species of *Phaseolus* and *Vigna* as determined by RFLP analysis of ribosomal DNA. *Jpn. J. Genet.* 70: 615-625. (J.Y. Zhang他と共著)
1995. 最近道路法面に発見されるキクタニギクとイワギクについて. 植物地理・分類研究 43: 124-126. (関太郎他と共著)
1995. Fluorescent banding patterns in hexaploid *Dendranthema occidentali-japonense* and *D. vastitum*. *La Kromosomo* II-79-80: 2739-2745. (K.Kondo他と共著)
1995. A comparison of fluorescent banding patterns in *Dendranthema indicum* collected in Japan and China. *La Kromosomo* II-79-80: 2746-2753. (K.K.Khaung他と共著)
1996. A comparative karyotype study in *Hylotelephium sieboldii* var. *ettyuense* and var. *sieboldii*, Crassulaceae. *Bull. Bot. Gard. Toyama* 1: 23-33.
1996. エッチュウミセバヤ自生地の現状. 富山県中央植物園研究報告 1: 47-51. (黒川道と共著)
1996. 富山県に確認されたトウカイコモウセンゴケ. 富山県中央植物園研究報告 1: 53-56. (吉田めぐみ他と共著)
1997. Cytological studies on chinese plants introduced from Yunnan Province. I. Karyomorphology of some species of *Primula* and *Androsace* (Primulaceae). *Bull. Bot. Gard. Toyama* 2: 1-15. (Q.A.Wu他と共著)
1997. Number of 45S rDNA sites in the two varieties of *Hylotelephium sieboldii* (Crassulaceae). *Bull. Bot. Gard. Toyama* 2: 45-50. (M.Mishima他と共著)
1997. 富山県フロラ資料 (1). 富山県中央植物園研究報告 2: 67-75. (大原隆明他と共著)
1998. 富山県産水生植物数種の染色体数. 富山の生物 37: 1-6. (長井真隆と共著)
1998. 氷見市大境産サンインギク個体群の変異. 富山県中央植物園研究報告 3: 1-16. (竹内基と共著)
1998. アイノコセンニンモの新産地と染色体数. 富山県中央植物園研究報告 3: 53-56. (長井真隆と共著)
1998. 富山県フロラ資料 (2). 富山県中央植物園研究報告 3: 63-73. (大原隆明と共著)
1999. 岩手県で発見されたイワギク八倍体とその進化史的意味. 富山県中央植物園研究報告 4: 1-15. (熊谷明彦と共著)
1999. ワカサハマギクの自生地とその現状. 富山県中央植物園研究報告 4: 1-15.
1999. 日本のキク属. RHSJ (英国王立園芸協会日本支部会誌) 10号. pp. 2-5.
2000. In vitro culture for preservation of triploid Senno (*Lychnis senno* Siebold et Zucc., $2n=36$), a valuable and rare ornamental plant. *Bull. Bot. Gard. Toyama* 5: 35-43. (T.Godo 他と共著)
2000. A chromosome observation on *Panax japonicus* (Araliaceae) using conventional orcein staining

- and fluorescent chromosome banding with CMA and DAPI. Bull. Bot. Gard. Toyama 5: 45-51. (H.Kohda他と共著)
2000. エッチュウミセバヤ、アイノコセンニンモ、サンインギク、トウカイコモウセンゴケ(分担執筆). 鳴橋直弘(編著)とやま植物物語. シー・エー・ピー, 富山.
2000. ホクリクムヨウランに関する細胞学的知見. 植物地理・分類研究 48: 97-99.
2001. 富山県中央植物園が中国雲南省から導入した植物の和名. 日本植物園協会誌 35: 108-111. (大宮他と共著)
2001. キクとの雑種を含むワカサハマギク個体群の14年後の追跡調査. 保全生態学研究 6: 21-27.
2001. 兵庫県の日本海側に見られるノジギクの逸出個体群. 兵庫県植物誌研究会会報 47: 1-2.
2001. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物. 富山県. (分担執筆)
2001. Cytological studies on 31 alpine plants collected in Murodou-daira, Mts. Tateyama, central Japan. Bull. Bot. Gard. Toyama 6: 5-20. (高橋一臣他と共著)
2001. 富山県におけるホクリクムヨウラン(ラン科)の自生地. 富山県中央植物園研究報告 6: 43-46.
2002. ユキバタツバキの三倍体—井口村指定天然記念物「丸山の大ユキバタツバキ」の染色体数調査結果とフィールドワークから. 富山県中央植物園研究報告 7: 31-35. (太田道人と共著)
- 学会発表
1995. 地域固有種保全の試み —エッチュウミセバヤの実態調査. (社)日本植物園協会第2回研究発表会. (黒川道と共同発表)
1996. 中国雲南省より導入したサクラソウ類の特性と栽培に関する研究 1. サクラソウ科数種の核形態. (社)日本植物園協会第3回研究発表会. (武全安他と共同発表)
1998. pNN806 反復DNAから見た栽培ギクの起原. 日本遺伝学会第70回大会. (谷口研至他と共同発表)
1998. 岩手県東北部に産するイワギクの八倍体. 日本植物分類学会第28回大会. (熊谷明彦他と共同発表)
1999. 反復DNAの多型性から見た栽培ギクの起原. 日本遺伝学会第71回大会. (谷口研至他と共同発表)
1999. キク属におけるpDA1501反復DNAの多様性. 日本遺伝学会第71回大会. (平岡智光他と共同発表)
2000. 生薬「竹節人參」の基原植物トチバニンジン *Panax japonicus* に関する研究 —俗にいう「薩摩人參」について—. 日本薬学会第120回年会. (竹内美和他と共同発表)
2000. 富山県中央植物園が中国雲南省から導入した植物の和名. (社)日本植物園協会第7回研究発表会. (黒川道他と共同発表)
2001. Conservation of Orchid at the Botanic Gardens of Toyama. 第7回アジア大平洋ラン会議. (神戸他と共同発表)

3. 大宮 徹

所属学会: 日本植物学会、International Association of Wood Anatomists

論文・著書

1998. Pericarp anatomy of *Wisteria floribunda*. Bull. Bot. Gard. Toyama 3: 25-33.
2001. 富山県中央植物園が中国雲南省から導入した植物の和名. 日本植物園協会誌 35: 108-111. (黒川道他と共著)
2002. 地涌金蓮 (*Musella lasiocarpa*) の葉と苞葉の葉序について. 富山県中央植物園研究報告 7: 1-7.

学会発表

2000. 富山県中央植物園が中国雲南省から導入した植物の和名. (社)日本植物園協会第7回研究発表会. (黒川道他と共同発表)

4. 山下寿之

所属学会: 日本生態学会、植生学会、植生史学会、種生物学会、森林立地学会、保全生態学研究会

論文・著書

1996. Growth of *Quercus mongolica* ssp. *crispula* coppice in the cool temperate region of Japan. Vegetation Science 13: 87-94. (I.Hayashi 他と共著)
1998. スダジイの種子発芽と初期成長. 富山県中央植物園研究報告 3: 35-40.
1998. 富山県氷見市の常緑広葉樹林. 富山県中央植物園研究報告 3: 41-51.
1999. 氷見市の植生. 氷見市教育委員会編「氷見の巨樹名木」. pp.161-171. 氷見市. (分担執筆)

1999. バクチノキの種子発芽. 富山県中央植物園研究報告 4: 37-41.
1999. 富山県婦中町常楽寺のオオツクバネガシとツクバネガシ. 富山県中央植物園研究報告 4: 43-46
2000. ツクバネガシ、オオツクバネガシ、アカガシ (分担執筆). 鳴橋直弘 (編著) とやま植物物語. pp. 95-97. シー・エー・ピー. 富山.
2001. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物. 富山県. (分担執筆).
2001. 富山県内のコナラ二次林の種類組成と遷移. 富山県中央植物園研究報告 6: 21-30.
2002. 富山県中央植物園内におけるアカマツ植栽木からの稚樹の増殖. 富山県中央植物園研究報告 7: 37-43. 学会発表
1997. 筑波大学構内におけるアカマツ林からシラカシ林への遷移過程について-途中相としてのヤマウルシの個体群について. 第44回日本生態学会大会. (石川真一と共同発表)
1999. 常緑広葉樹二次林におけるハナガシ個体群の更新 -地形と稚樹個体群の分布-. 第46回日本生態学会大会. (松田敦他と共同発表)
1999. 絶滅危惧種ハナガシの個体群構造と立地環境. 第110回日本林学会大会. (松田敦他と共同発表)
1999. 分布北限のオオツクバネガシを含むウラジロガシ林の群落構造. 第4回植生学会.
2000. Population structure and dynamics of *Quercus hondae* Makino 1. Size structure and spatial distribution in a small catchment area. 第43回国際植生学会議. (S.Itoh 他と共同発表)
2000. Population structure and dynamics of *Quercus hondae* Makino 2. Topography and vegetation constraints for seedling establishment. 第43回国際植生学会議. (A.Matsuda 他と共同発表)
2001. ハナガシ林とイチイガシ林の種類組成と立地環境. 日本生態学会第49回大会. (共同発表)

5. 神戸敏成

所属学会：日本育種学会、日本園芸学会、国際園芸学会、日本植物分子生物細胞学会、保全生態学研究会

1995. Rutihibin, novel plant growth regulators from *Streptomyces graminofaciens*. Antibiotics 48: 1004-1010. (N.Fukuchi 他と共著)
1996. Effect of sugar type on the efficiency of plant regeneration from protoplasts isolated from shoot tip-derived meristematic nodular cell clumps of *Lilium x formolongi* hort. Plant Cell Reports 15: 401-404. (K.Matsui 他と共著)
1996. Regeneration of plants from protoplasts of *Lilium x formolongi*. In: Bajaj, Y.P.S. (ed.) Biotechnology in Agriculture and Forestry, Vol. 38 Plant Protoplasts and Genetic Engineering VII. pp. 79-89. Springer-Verlag, Berlin. (M.Mii と共著、分担執筆)
1996. 中国雲南省産サクラソウ属 (*Primula*) 植物の増殖及び保存に関する研究 1. 培養温度が発芽及び生育に及ぼす影響. 富山県中央植物園研究報告 1: 35-39.
1996. ガラス化法によるシンテッポウユリ (*Lilium x formolongi* hort.) の超低温保存に関する研究. 富山県中央植物園研究報告 1: 41-45. (三位正洋他と共著)
1997. Fertile transgenic plants of *Nierembergia scoparia* Sendtner obtained by a mikimopine type strain of *Agrobacterium rhizogenes*. Scientia Horticulturae 68: 101-111. (O.Tsujii 他と共著)
1997. 絶滅危惧植物ミズアオイ (*Monochoria korsakowii* Regel & Maack.) の発芽特性に関する研究. 富山県中央植物園研究報告 2: 17-22.
1998. Improved plating efficiency of lily (*Lilium x formolongi* hort.) protoplasts by silver thiosulfate added to enzyme solution. Breeding Science 48: 159-161. (K.Matsui 他と共著)
1998. In vitro propagation utilizing suspension cultures of meristematic nodular cell clumps and chromosome stability of *Lilium x formolongi* hort. Scientia Horticulturae 72: 193-202. (K.Kobayashi 他と共著)
1999. 絶滅危惧植物ミズアオイ (*Monochoria korsakowii* Regel & Maack.) の富山県内における分布について. 富山県中央植物園研究報告 4: 59-65.
2000. Transgenic *Nierembergia scoparia*. In: Bajaj Y.P.S. (ed.) Biotechnology in Agriculture and Forestry, Vol. 48 Transgenic Crops III. Springer-Verlag, Berlin. (M.Mii と分担執筆)
2000. In Vitro Culture for Preservation of Triploid Senno (*Lychnis senno* Siebold et Zucc., 2n=36), a Valuable and Rare Ornamental Plant. Bull. Bot. Gard. Toyama 5: 35-43. (中田政司らと共著)
2000. Initiation and Proliferation of Embryogenic Callus Culture from Buds in Bulbs of *Tulipa*

praestans Hoog. Bull. Bot. Gard. Toyama 5: 53-57.

2001. Plant regeneration from calli of lilies preserved at low temperature. Bull. Bot. Gard. Toyama 5: 31-36.

2002. 中国雲南省での植物調査記録—2001年調査行程と採集標本リスト. 富山県中央植物園研究報告 7: 45-57.(管開雲らと共著)

学会発表

1996. 中国雲南省より導入したサクラソウ類の特性と栽培に関する研究 2. サクラソウ属の発芽・生育に及ぼす温度の影響. (社)日本植物園協会第3回研究発表会. (黒川道他と共同発表)

1997. 絶滅危惧植物ミズアオイの発芽特性に関する研究. (社)日本植物園協会第4回研究発表会.

2000. In vitro germplasm preservation of lily species utilizing callus culture at low temperature. 4th International Symposium on In Vitro Culture and Horticultural Breeding. (M.Mii と共同発表)

2000. In vitro propagation and recovery of a habitat of *Habenaria radiata* (Orchidaceae). 第4回国際組織培養及び園芸育種シンポジウム. (大谷他と共同発表)

2001. Conservation of Orchid at the Botanic Gardens of Toyama. 第7回アジア大平洋ラン会議. (中田他と共同発表)

2002. シラン(*Bletilla striata*)未熟胚のガラス化法による超低温保存. 日本育種学会第101回大会. (平野他と共同発表)

6. 橋屋 誠

所属学会：日本菌学会

論文・著書

1996. ソフトウェアエンジニアリングに基づいた教育支援システムの開発 - 生物検察ソフトウェアを題材として. 滋賀大学教育学部紀要 (自然科学) 46: 67-74. (辻彰洋他と共著)

1997. 色素のサーベイとしての教材化. 科学と教育. 44: - . (辻彰洋他と共著)

1997. 富山県フロラ資料(1). 富山県中央植物園研究報告 2: 67-75. (大原隆明他と共著)

1999. 京都西山周辺の植物目録. 114pp. 乙訓の自然を守る会. (共著)

2000. 植物 (高等菌類). 立山地区動植物種多様性調査報告書. 富山県自然保護課. (分担執筆)

2001. 富山県フロラ資料(5). 富山県中央植物園研究報告 6: 67-81. (大原隆明と共著)

学会発表

2001. アマチュア研究者の取り組み. 日本菌学会第45回大会. (共同発表)

7. 吉田めぐみ

所属学会：種生物学会、富山県生物学会

論文・著書

1996. 富山県に確認されたトウカイコモウセンゴケ. 富山県中央植物園研究報告 1: 53-56. (小宮定志他と共著)

2000. ライチョウの棲息環境としての立山室堂平「丸山」の植生. 富山県中央植物園研究報告 5: 65-78. (吉田稔と共著)

2001. 立山室堂平の維管束植物相—立山室堂平周辺植物調査報告書— 1999-2000. 富山県文化振興財団. (高橋他と共著)

2001. 立山室堂平におけるライチョウの棲息地の植生. 富山県中央植物園研究報告 6: 53-65. (吉田稔と共著)

8. 兼本 正

所属学会：沖縄生物学会、植物地理・分類学会、日本植物分類学会

論文・著書

1993. 沖縄島北部背梁山地北部東側地域における林齢による植生の比較研究. 特殊鳥類等生息環境調査 5. 沖縄県環境保険部自然保護課. (新城和治他と共著)

1996. 慶良間諸島屋嘉比島の植生. ケラマジカ保護対策緊急実体調査. 沖縄県教育委員会.

1996. 慶良間諸島慶留間島の植生. ケラマジカ保護対策緊急実体調査. 沖縄県教育委員会.

1996. 富山県中央植物園で栽培されている琉球列島産植物の目録. 富山県中央植物園研究報告1: 63-75.

1997. 富山県で発見されたシオン属とヨメナ属との属間雑種. 富山県中央植物園研究報告 2: 59-66. (志内利

明と共著)

1997. 栽培下で生じたアマミサンショウソウとヨナクニトキホコリの雑種. 富山県中央植物園研究報告 2: 51-57.
1997. 琉球列島産ウワバミソウ属4種の染色体数. 植物地理・分類研究. (横田昌嗣と共著)
1997. 琉球列島植物分布資料15. 沖縄生物学会誌 35: 55-64. (横田昌嗣他と共著)
1998. コケミズの染色体数. 富山県中央植物園研究報告 3: 57-61.
1999. 絶滅危惧種コナミキの新産地とその染色体数. 富山県中央植物園研究報告 4: 33-35. (志内利明と共著)
1999. 琉球列島産アリサンミズ(広義)の核型の多様性. 富山県中央植物園研究報告 4: 17-23.
2000. Karyotype analysis in four taxa of *Aster* (Asteraceae) found in the Ryukyu Islands. Bull. Bot. Gard. Toyama 5: 1-8.
2000. クニガミサンショウズルの倍数性. 植物地理・分類研究. (横田昌嗣他と共著)
2000. 琉球列島産イラクサ科ウワバミソウ属の系統保存. 日本植物園協会誌 34: 104-106.
2000. ウワバミソウ(分担執筆). 鳴橋直弘(編著)とやま植物物語. シー・エー・ピー, 富山.
2001. Chromosome number variation in *Elatostema suzukii* (Urticaceae), a species endemic to Okinawa Island, the Ryukyus. Acta Phytotax. Geobot. 51: 21-29. (共著)
2001. Karyomorphology in *Strobilanthes glandulifera* and *S. tashiroi* (Acanthaceae) of the Ryukyu Islands. Bull. Bot. Gard. Toyama 6: 1-4.
2001. Chromosome numbers of plants cultivated in the Botanic Gardens of Toyama (2). Bull. Bot. Gard. Toyama 6: 47-51. (志内利明と共著)
2002. Chromosome Number of *Lecanthus peduncularis* (Urticaceae) of Japan. Bull. Bot. Gard. Toyama 7: 23-26.
2002. Chromosome Number of *Elatostema obtusum* var. *triobulatum* (Urticaceae). Bull. Bot. Gard. Toyama 7: 27-30.
- 学会発表
1994. 琉球列島産ウワバミソウ属の染色体数. 第25回日本植物分類学会大会.
1998. 富山県産ウワバミソウとヤマトキホコリの染色体数. 第29回日本植物分類学会大会.
1999. ウワバミソウの開花特性. 第30回日本植物分類学会大会.
1999. 琉球列島産イラクサ科ウワバミソウ属の系統保存. 日本植物園協会第34回大会研究発表会.

9. 高橋一臣

所属学会: 日本植物学会、植物地理・分類学会

論文・著書

1994. Allozyme evidence for intersectional and intergeneric hybridization in the genus *Sasa* and its related genera (Poaceae; Bambusoideae). J. Phytogeogr. & Taxon. 42: 49-60. (Y. Watano 他と共著)
1997. イネ科タケ亜科(分担執筆). 清水建美(監修)、長野県植物誌編纂委員会(編). 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社, 長野.
2000. チマキザサ(分担執筆). 鳴橋直弘(編著). とやま植物物語. シー・エー・ピー, 富山.
2001. Cytological studies on 31 alpine plants collected in Murodō-daira, Mts. Tateyama, central Japan. Bull. Bot. Gard. Toyama 6: 5-20. (中田政司他と共著)
2001. ヤマボウシの実生形態の比較. —氷見と箱根の種子からの—. 富山県中央植物園研究報告 6: 37-41. (志内利明と共著)
2002. 立山室堂平産ササ属植物の葉の表皮微細構造. 富山県中央植物園研究報告 7: 9-15.

学会発表

1998. ヒメアオキの雌雄の空間的分布パターン. 日本植物学会第62回大会. (志内利明と共同発表)
2001. 立山室堂平の維管束植物相-立山室堂平周辺植物調査報告書-. 1999-2000. 富山県文化振興財団. (吉田他と共著)

10. 大原隆明

所属学会: 日本植物分類学会、種生物学会

論文・著書

1995. ヤブザクラのルーツを探る. 植物の世界5号. p.105. 朝日新聞社.
1996. 富士山麓本栖湖畔に産する秋咲き性のキケマン属植物. 富山県中央植物園研究報告 1: 57-61.

1997. ハナハマセンブリ *Centaurium tenuiflorum* 富山県に帰化. 富山市科学文化センター研究報告 20: 105.(太田道人他と共著)
1997. 富山県フロラ資料(1). 富山県中央植物園研究報告 2: 67-75.(中田政司他と共著)
1998. 富山県フロラ資料(2). 富山県中央植物園研究報告 3: 63-73.(中田政司と共著)
1999. 富山県フロラ資料(3). 富山県中央植物園研究報告 4: 67-78.
2000. 富山県フロラ資料(4). 富山県中央植物園研究報告 5: 79-91.
2001. 富山県フロラ資料(5). 富山県中央植物園研究報告 6: 67-81.(橋屋誠と共著)
2001. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物. 富山県.(分担執筆)
2002. 富山県フロラ資料(6). 富山県中央植物園研究報告 7: 59-69.(高木末吉と共著)
- 学会発表
1998. ミヤマチヨウジザクラ *Prunus apetala* var. *monticola* の遺伝的多様性. 日本植物分類学会第28回大会.(芹沢俊介他と共同発表)
2000. チヨウジザクラ *Prunus apetala* var. *apetala* の本州東西間における形態の差異. 日本植物分類学会第30回大会.
2000. マメザクラ群およびチヨウジザクラ群の遺伝的關係. 日本植物学会第64回大会.(芹沢俊介他と共同発表)
2001. イシツチザクラ *Prunus shikokuensis* (Moriya) Kubota の雑種性の検証. 日本植物分類学会第31回大会.(共同発表)
2001. Conservation of Orchid at the Botanic Gardens of Toyama. 第7回アジア大平洋ラン会議.(神戸他と共同発表)

11. 志内利明

所属学会：日本植物学会、日本植物分類学会、日本熱帯生態学会

論文・著書

1996. Notes on the flora of the Ryukyu Islands 1. Two new varieties from the Tokara Islands, *Peucedanum japonicum* Thunb. var. *latifolium* (Umbelliferae) and *Hydrangea involucreata* Sieb. var. *tokarensis* (Hydrangeaceae). J. Jpn. Bot. 71: 183-187. (M.Hotta と共著)
1996. 西南日本の植物雑記III. 九州から南西諸島にかけてのノジギク群の分布と分類. 植物分類, 地理. 47: 91-104. (堀田満他と共著)
1997. Molecular phylogenetic position of Podostemaceae, a marvelous aquatic flowering plant family. J. Plant. Res. 110: 87-92. (K.Ueda 他と共著)
1997. 富山県で発見されたシオン属とヨメナ属との属間雑種. 富山県中央植物園研究報告 2: 59-66. (兼本正と共著)
1999. 絶滅危惧植物コナミキの新産地とその染色体数. 富山県中央植物園研究報告 4: 33-35. (兼本正と共著)
2000. Chromosome numbers of plants cultivated in the Botanic Gardens of Toyama (1). Bull. Bot. Gard. Toyama 5: 59-63.
2001. ヤマボウシの実生形態の比較. 一氷見と箱根の種子からの一. 富山県中央植物園研究報告 5: 37-41. (高橋一臣と共著)
2001. Chromosome numbers of plants cultivated in the Botanic Gardens of Toyama (2). Bull. Bot. Gard. Toyama 6: 47-51. (兼本正と共著)
2002. Pollen Morphology of Three Varieties of *Aucuba japonica*. Bull. Bot. Gard. Toyama 7: 17-21.
- 学会発表
1997. 九州以南におけるボタンボウフウ群の地理的変異と遺伝的分化. 日本植物分類学会第27回大会.(渡辺幹男他と共同発表)
1998. 九州南部から南西諸島にかけてのツリガネニンジン類の地理的変異とその分類. 日本植物分類学会第28回大会.(堀田満と共同発表)
1998. ヒメアオキの雌雄の空間的分布パターン. 日本植物学会第62回大会(高橋一臣と共同発表).
1999. ウマノスズクサ科植物におけるカルコン配糖体の分布. 日本植物学会第63回大会(岩科司他と共同発表)
2001. カンアオイの葉に含まれるカルコン配糖体. 日本植物学会第65回大会.(岩科司他と共同発表)

富山県中央植物園事業概要 第5号 拡大版（平成14年度）
付 富山県中央植物園 10年のあゆみ

平成15年10月1日 発行

編集兼発行：富山県中央植物園
〒939-2713 富山県婦負郡婦中町上轡田42
TEL 076-466-4187
FAX 076-465-5923
発行所：財団法人花と緑の銀行
〒939-2713 富山県婦負郡婦中町上轡田42
印刷：大東印刷株式会社
